

2. 保護者アンケート調査結果

【調査方法概要】

18歳以下の子どもを有する保護者3,000名以上の実態が把握できるよう調査設計した。具体的には、性別、子ども（末子）の年齢及び地域による層化抽出を行った。

本調査では、郵送調査とWeb調査を比較した上で、回収数の担保、データの質の向上、効果的・効率的な実施の観点から、Web調査を採用した。調査は以下のスケジュールで実施した。

平成22年9月10日(金) 調査開始

平成22年9月13日(月) 調査完了

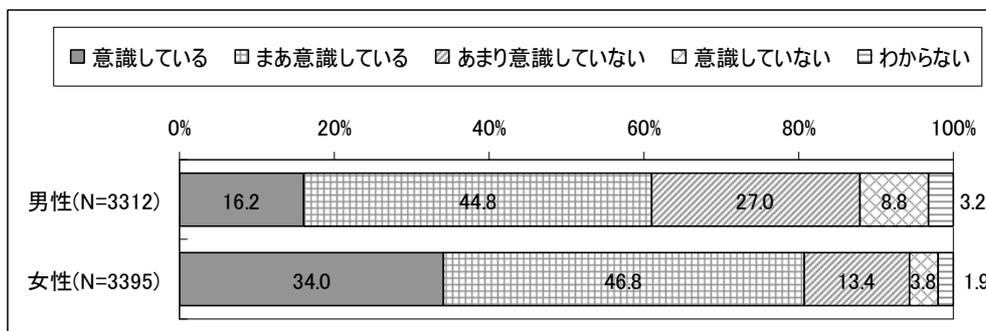
なお、回収結果は以下のとおりである。

子ども(末子)年齢	都市部(県庁所在地および人口20万人以上の市)	地方部(その他市町村)	計
0～2歳	286(男性143/女性143)	286(男性143/女性143)	572
3～5歳	286(男性143/女性143)	286(男性143/女性143)	572
小学生(低学年)	190(男性95/女性95)	190(男性95/女性95)	380
小学生(中学年)	190(男性95/女性95)	190(男性95/女性95)	380
小学生(高学年)	190(男性95/女性95)	190(男性95/女性95)	380
中学生	286(男性143/女性143)	286(男性143/女性143)	572
高校生	280(男性140/女性140)	280(男性140/女性140)	560
計	1,708	1,708	3,416

(1) 子どもの生活習慣づくりの意識と『早寝早起き朝ごはん』国民運動に対する認識度

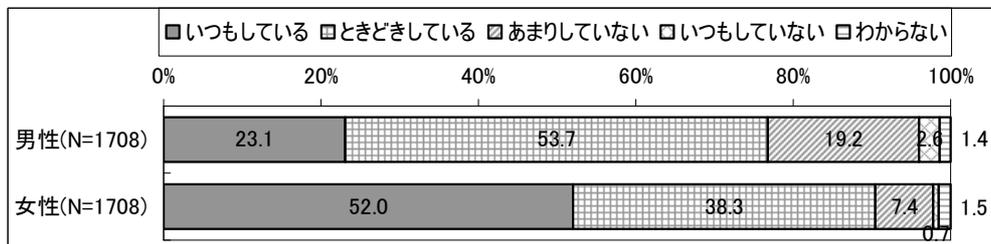
子どもの生活習慣づくりの意識を男女別にみると、両者とも最も多いのは「まあ意識している」だが、女性の方が「意識している」割合が男性よりも高く、「意識している」「まあ意識している」の合計が80.8%に達しているのに対し、男性のそれは61.0%にとどまっている。

図表概 2-1 子どもの生活習慣づくりの意識（男女別）



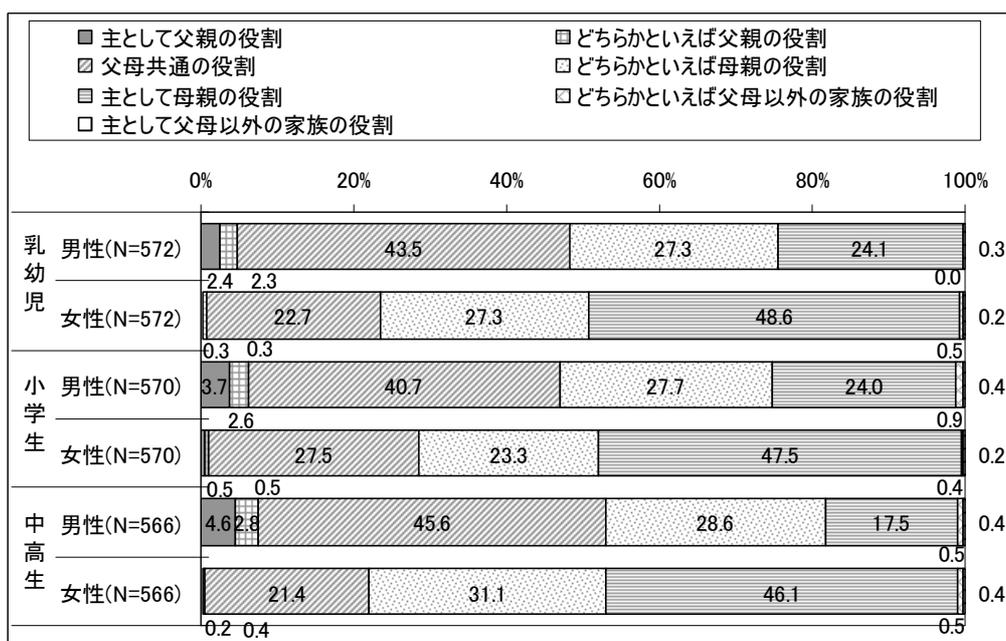
同様に、子どもの生活習慣づくりのための行動を男女別にみると、男性は「ときどきしている」が最も多く、女性は「いつもしている」が最も多い。女性は「いつもしている」「ときどきしている」の合計が90.3%に達しているのに対し、男性のそれは76.8%にとどまっている。

図表概 2-2 子どもの生活習慣づくりのための行動（男女別）



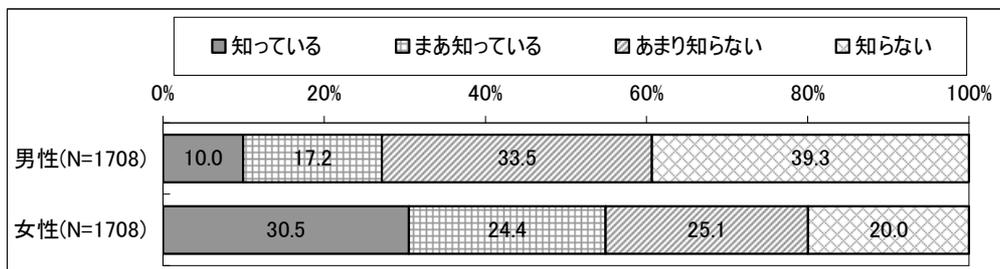
生活習慣づくりに関する家庭での役割について、父親は父母共通の役割とする回答が多いのに対し、母親は主として母親の役割と回答するなど、保護者間での意識の乖離が大きくなっている。

図表概 2-3 家庭での役割「子どもの基本的な生活習慣づくりをする」



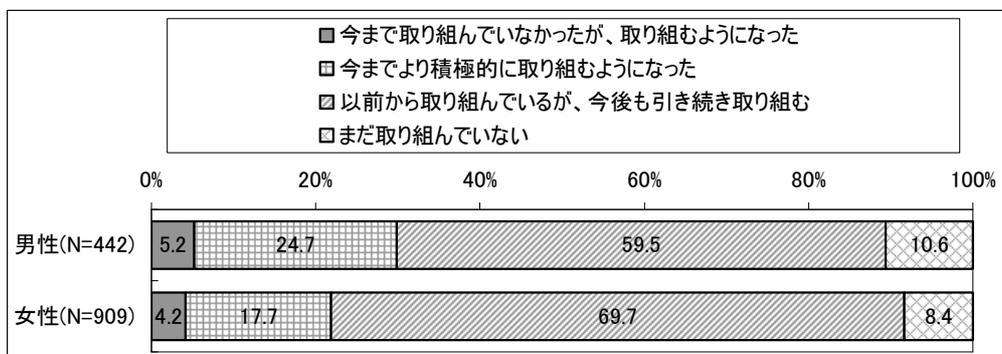
「早寝早起き朝ごはん」国民運動の認知度を男女別にみると、男性は「知っている」「まあ知っている」の合計が27.2%にとどまるのに対し、女性のそれは54.9%と過半数を超えている。

図表概 2-4 「早寝早起き朝ごはん」国民運動の認知度（男女別）



学校や地域からの情報で「早寝早起き朝ごはん」といった子どもの生活習慣の大切さが「理解できた」「まあ理解できた」と回答した方の家庭での「早寝早起き朝ごはん」等子どもの生活習慣づくりの取組の変化を男女別にみると、両者とも最も多いのは「以前から取り組んでいるが、今後も引き続き取り組む」である。男性は「今まで取り組んでいなかったが、取り組むようになった」「今までより積極的に取り組むようになった」の合計が29.9%であるのに対し、女性のそれは21.9%であり、男性の方が「早寝早起き朝ごはん」国民運動の認知度は低いものの、認知し、理解した方については、より積極的に子どもの生活習慣づくりに取り組んでいる傾向がある。

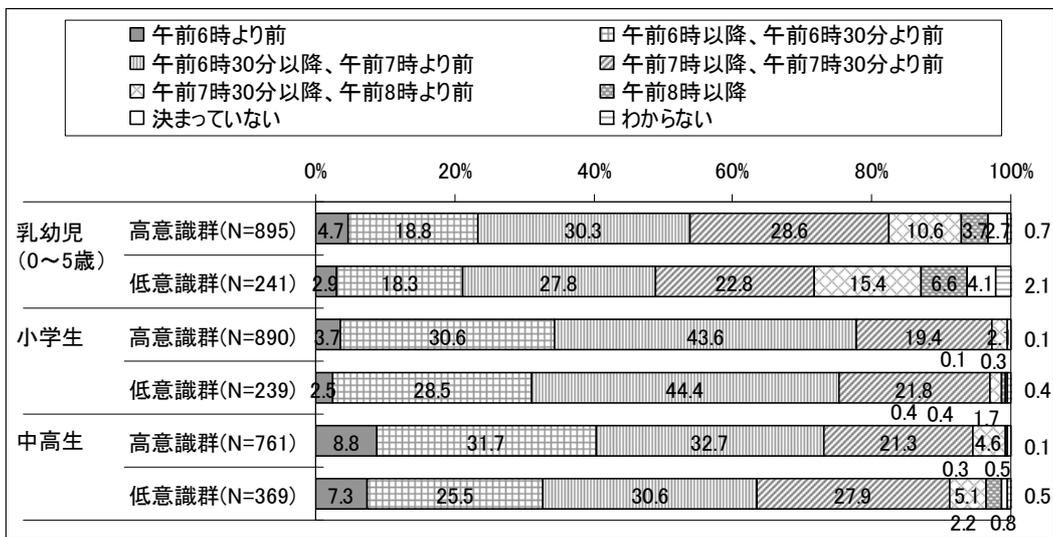
図表概 2-5 家庭での「早寝早起き朝ごはん」等子どもの生活習慣づくりの取組の変化（男女別）



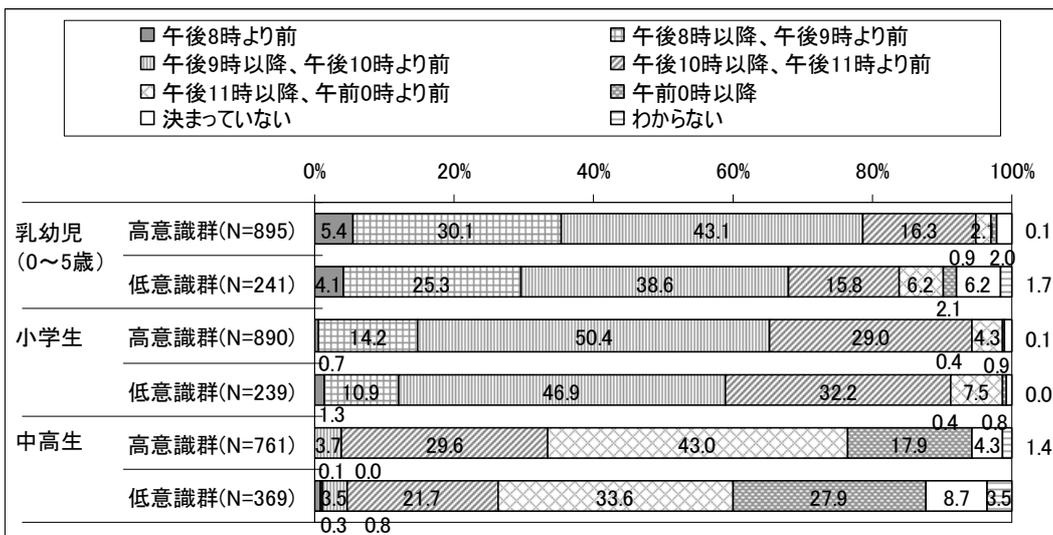
(2) 子どもの生活習慣形成と保護者の生活習慣形成意識との関係

保護者の生活習慣づくりに対する意識と子どもの生活習慣との関係について分析をするため、子どもの生活習慣づくりについて「意識している」「まあ意識している」と回答した方を高意識群、「意識していない」「あまり意識していない」と回答した方を低意識群とし、各群における差異を示した。その結果、保護者の意識と子どもの起床時刻等との関係は大きくないが、保護者の意識が高い群ほど、子どもの就寝時刻や夕食時刻が早く、家族での挨拶頻度が高い傾向が見られた。保護者の意識が高い群では、保護者による子どもの生活習慣づくりのための行動（しつけ、うながし、ともに行う）が実施されていたほか、親子コミュニケーションの時間が長く、朝食や夕食を子どもと一緒に食べていたり、保護者自身の起床時刻も早い傾向が見られた。

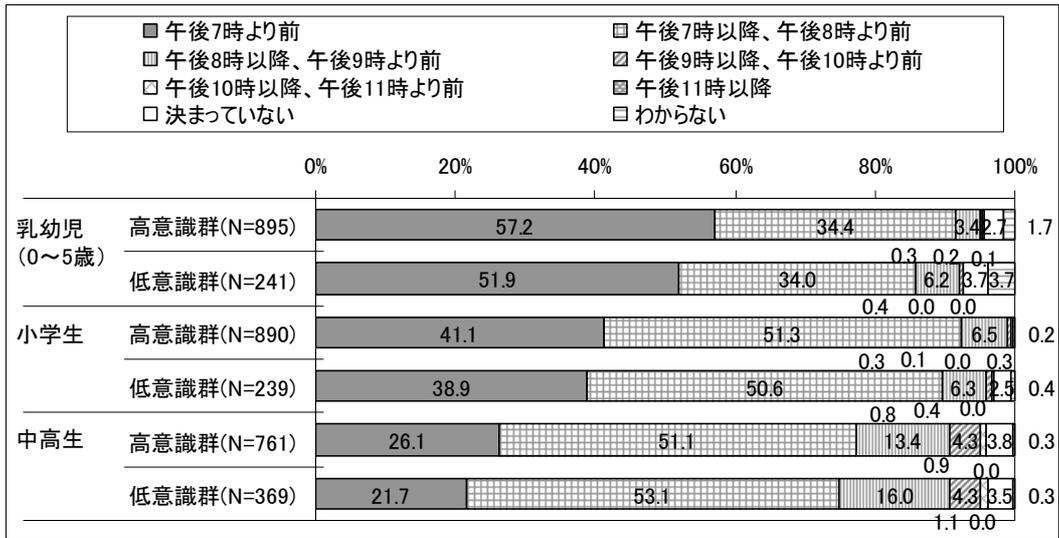
図表概 2-6 子どもの平日の起床時刻（年齢・意識別）



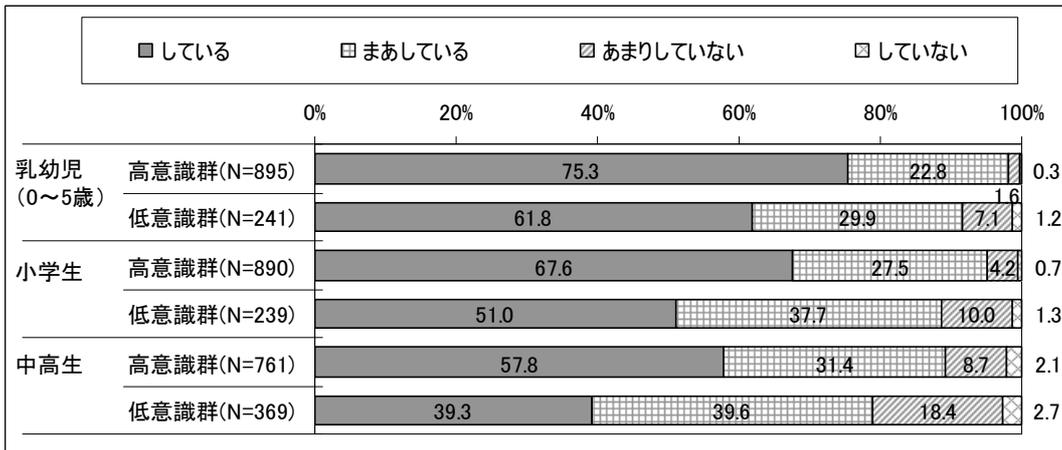
図表概 2-7 子どもの平日の就寝時刻（年齢・意識別）



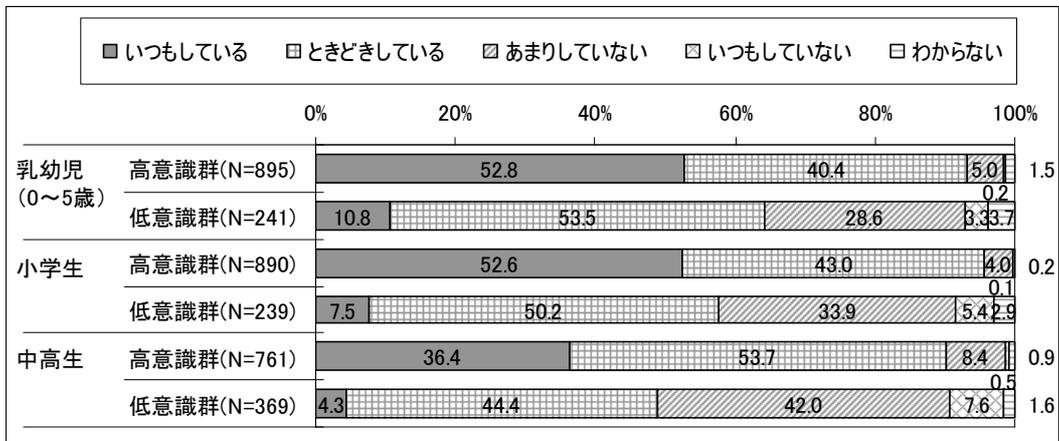
図表概 2-8 子どもの平日の夕食時刻（年齢・意識別）



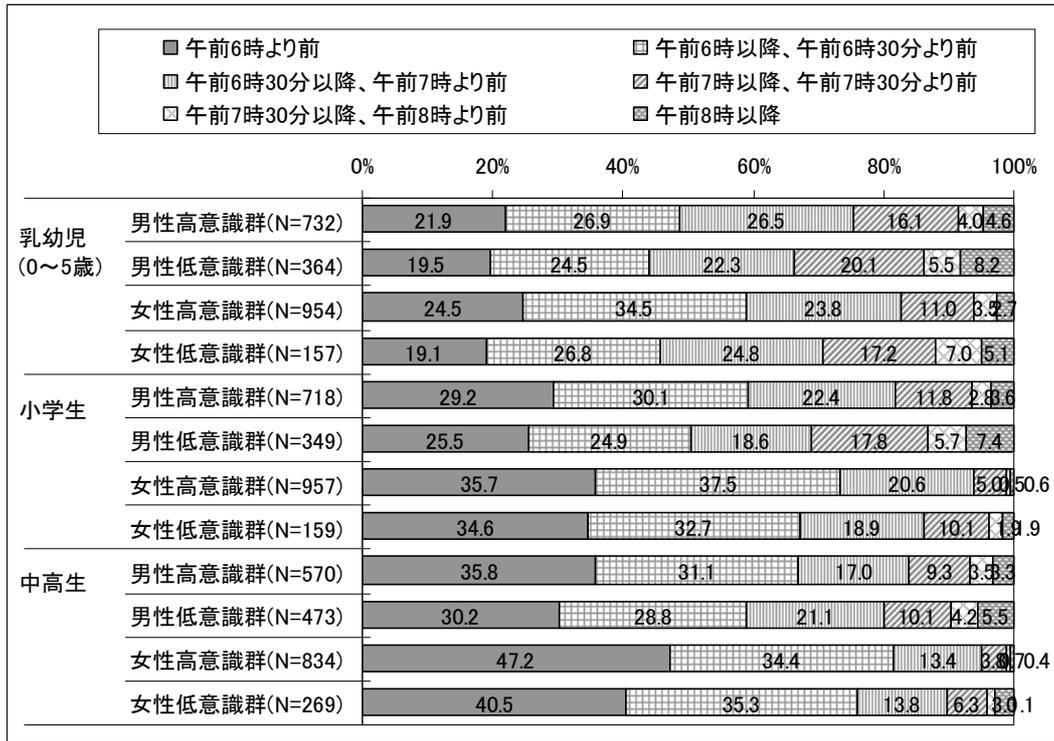
図表概 2-9 挨拶を家族でしている（年齢・意識別）



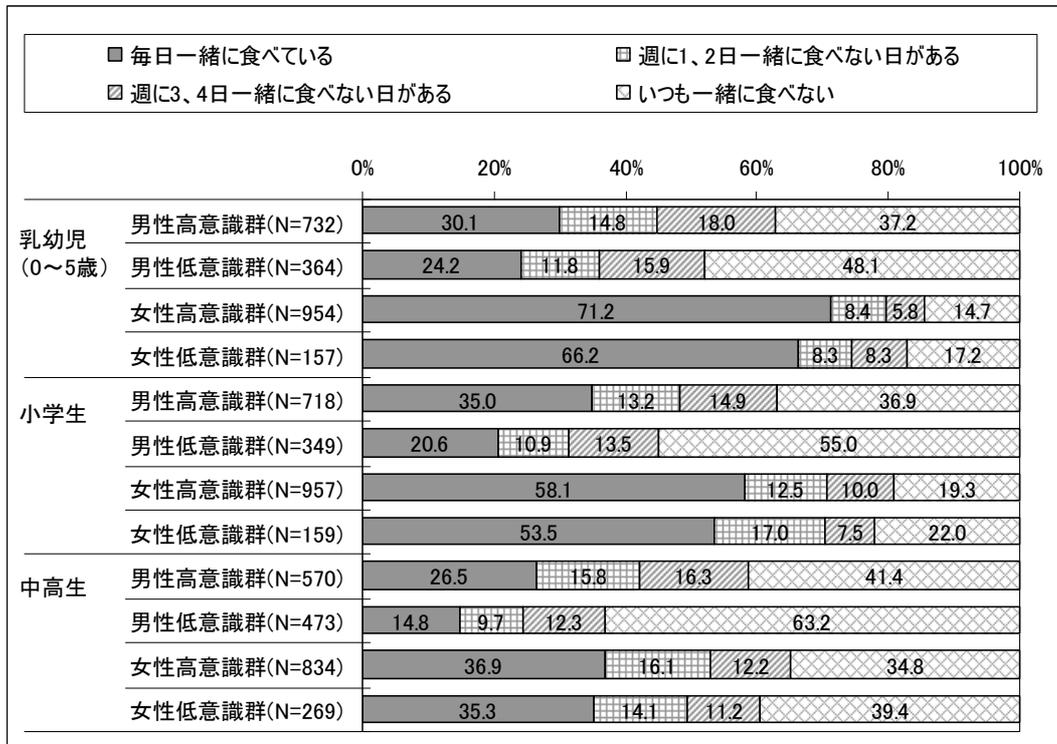
図表概 2-10 子どもの生活習慣づくりのための行動（年齢・意識別）



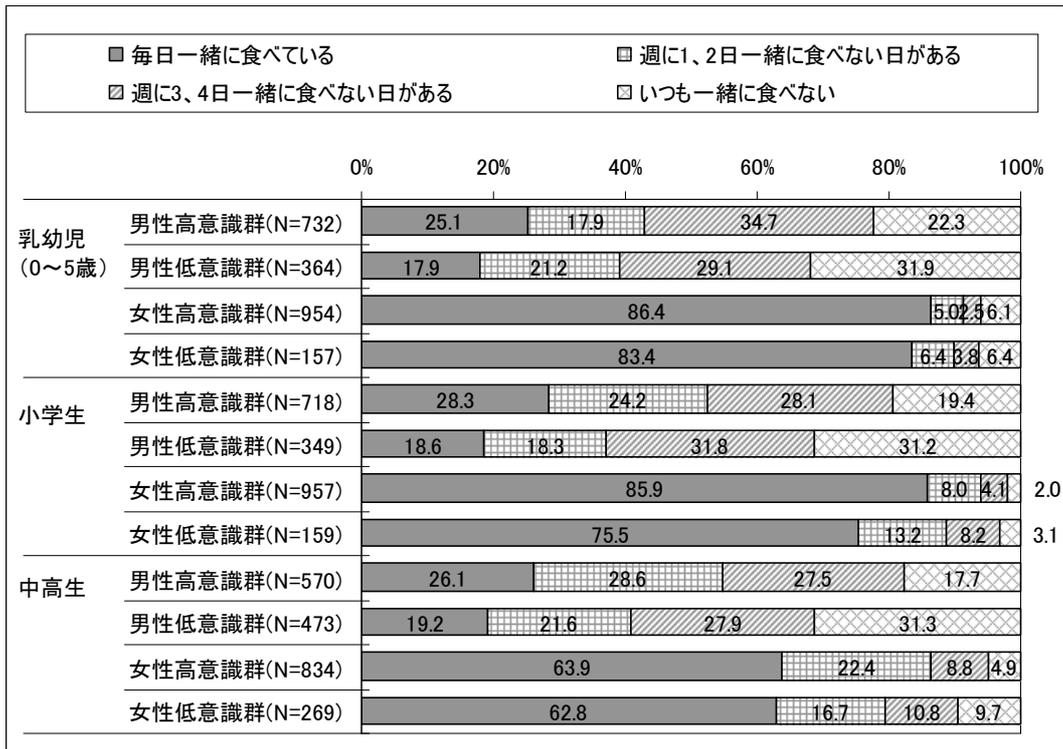
図表概 2-11 保護者の平日の起床時刻（子ども年齢・意識別）



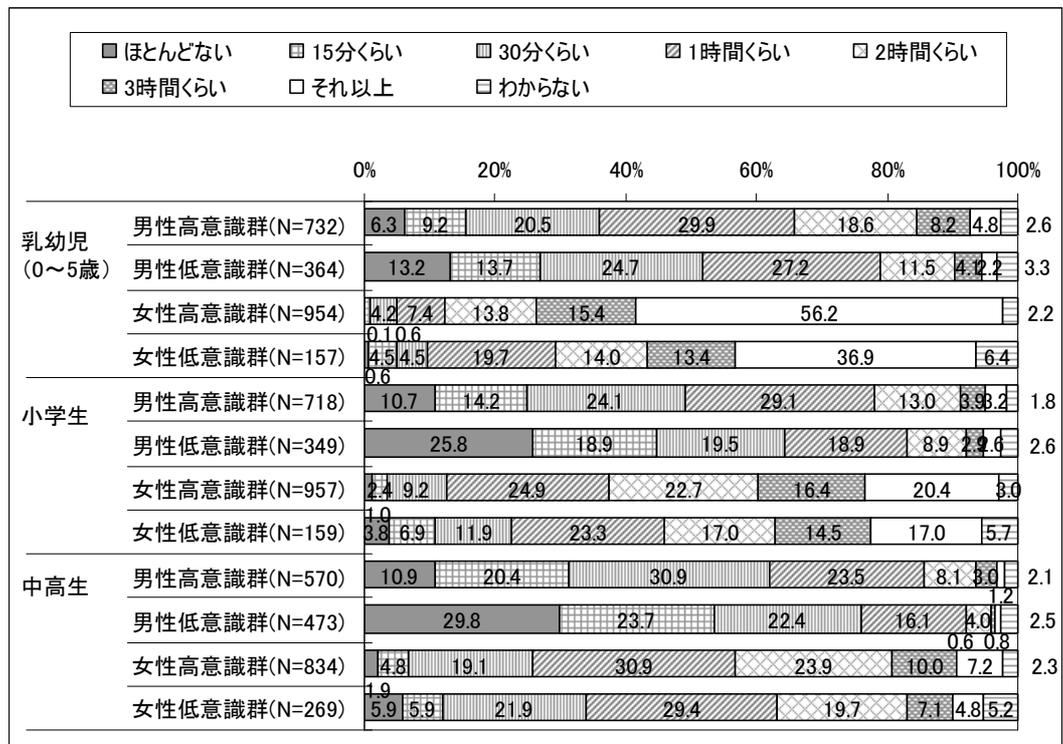
図表概 2-12 平日に子どもと一緒に朝食を食べている（年齢・意識別）



図表概 2-13 平日に子どもと一緒に夕食を食べている（年齢・意識別）



図表概 2-14 平日に子どもとコミュニケーション等をとっている時間の平均（年齢・意識別）



(3) 家庭の就業状況と子ども、保護者の生活習慣の関係

家庭の就業状況と子どもの生活習慣との関係について分析するため、典型的な家庭の就業状況をいくつか取り上げて分析した。

以下の分析では、回答者数を踏まえて、以下の家庭について取り上げる。なお、各群の構成サンプル数及び割合は以下のとおりである（サンプル数 80 以上を対象とした）。

- ・ 父親、母親とも「常勤」
- ・ 父親「常勤」、母親「勤め人（非常勤、パート、アルバイトなど）」
- ・ 父親「常勤」、母親「無職（専業主婦含む）」
- ・ 父親「自営業、自由業、家族従事者」、母親「勤め人（非常勤、パート、アルバイトなど）」
- ・ 父親、母親とも「自営業、自由業、家族従事者」
- ・ 父親「自営業、自由業、家族従事者」、母親「無職（専業主婦含む）」

※「常勤」は「常勤の勤め人（官公庁）」「常勤の勤め人（民間企業）」の合計、「勤め人」は非常勤、パート、アルバイトなどの合計、「自営業、自由業、家族従事者」は「自営業」「自由業」「家族従事者」の合計である。

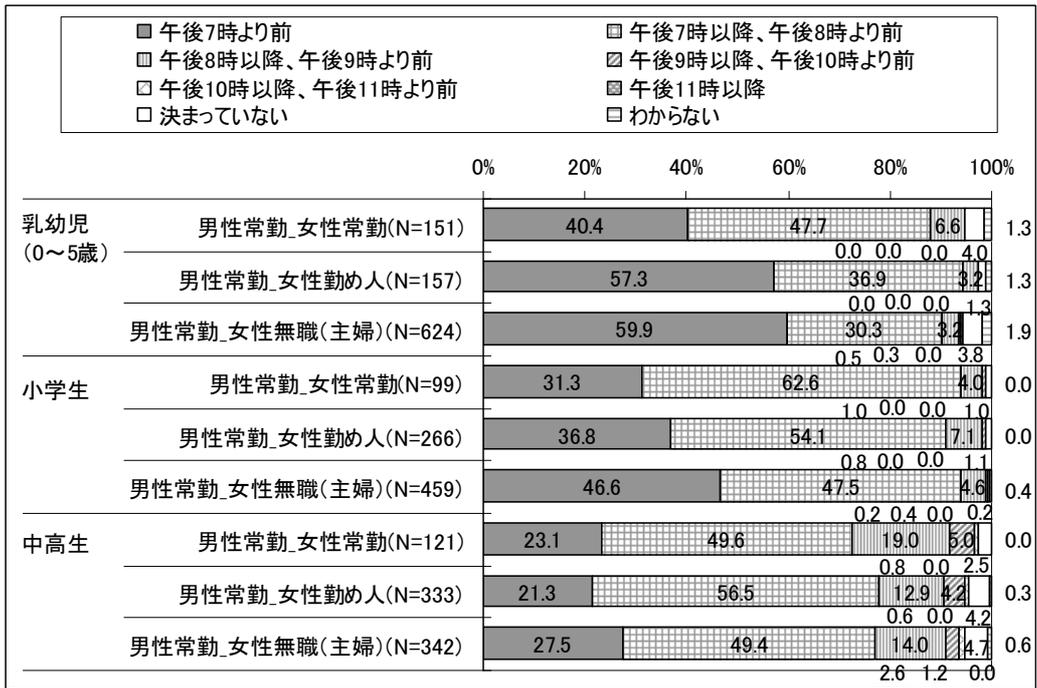
※各群における子どもの年齢構成は異なることに留意が必要である。

		保護者(女性)			
		常勤	勤め人	自営業、自由業、家族従事者	無職(専業主婦含む)
保護者 (男性)	常勤	371 12.0%	756 24.5%	53 1.7%	1425 46.2%
	勤め人	11 0.4%	23 0.7%	1 0.0%	22 0.7%
	自営業、自由業、家族従事者	53 1.7%	88 2.9%	116 3.8%	132 4.3%
	無職(専業主夫含む)	8 0.3%	5 0.2%	3 0.1%	17 0.6%

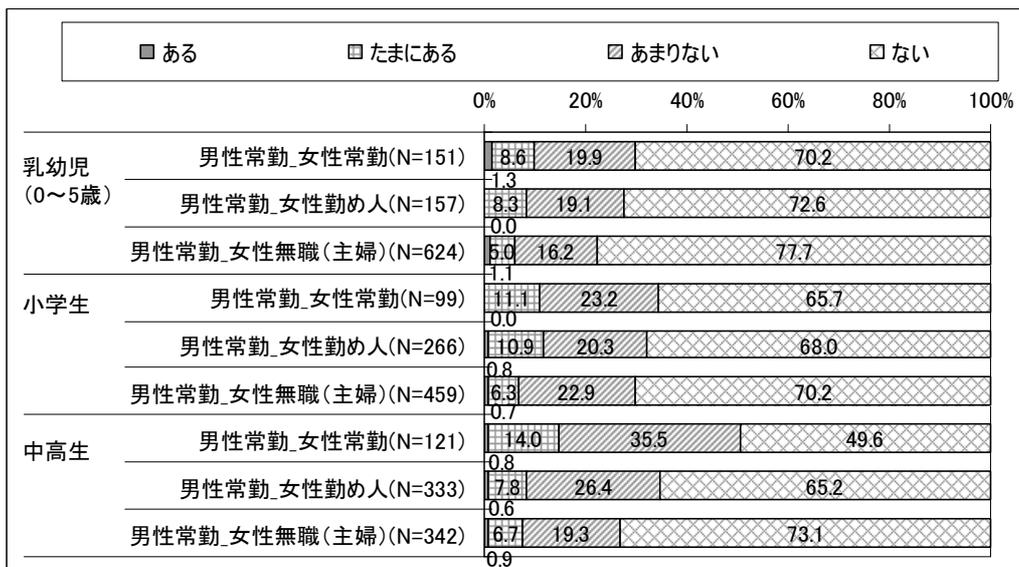
※ 上段はサンプル数（人）、下段は割合（ここでは N=3084）。

このうち、「父親、母親ともに常勤」「父親は常勤、母親は勤め人（非常勤、パート、アルバイトなど）」「父親は常勤、母親は無職（専業主婦）」という家庭について見ると、母親は無職の家庭（以下、専業主婦のいる家庭）において、夕食時刻が早く、子どもの午後 9 時以降の外出が少なく、家族での挨拶頻度が高い傾向が見られた。一方、両親とも常勤の家庭においても、午後 8 時までには多くの家庭で夕食を食べているほか、子どもの起床時刻は早い傾向が見られた。

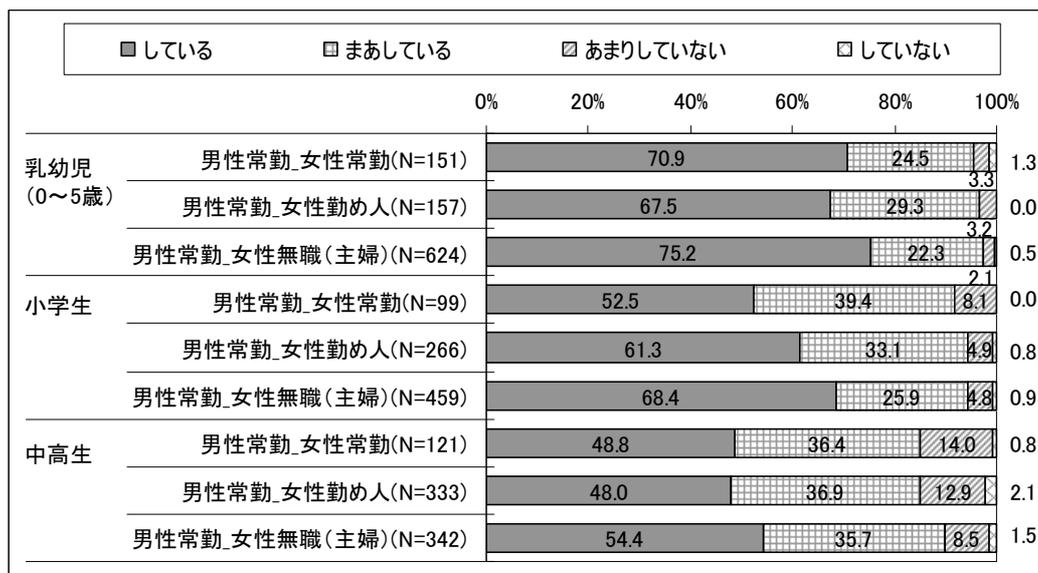
図表概 2-15 子どもの平日の夕食時刻（年齢・就業状況別）



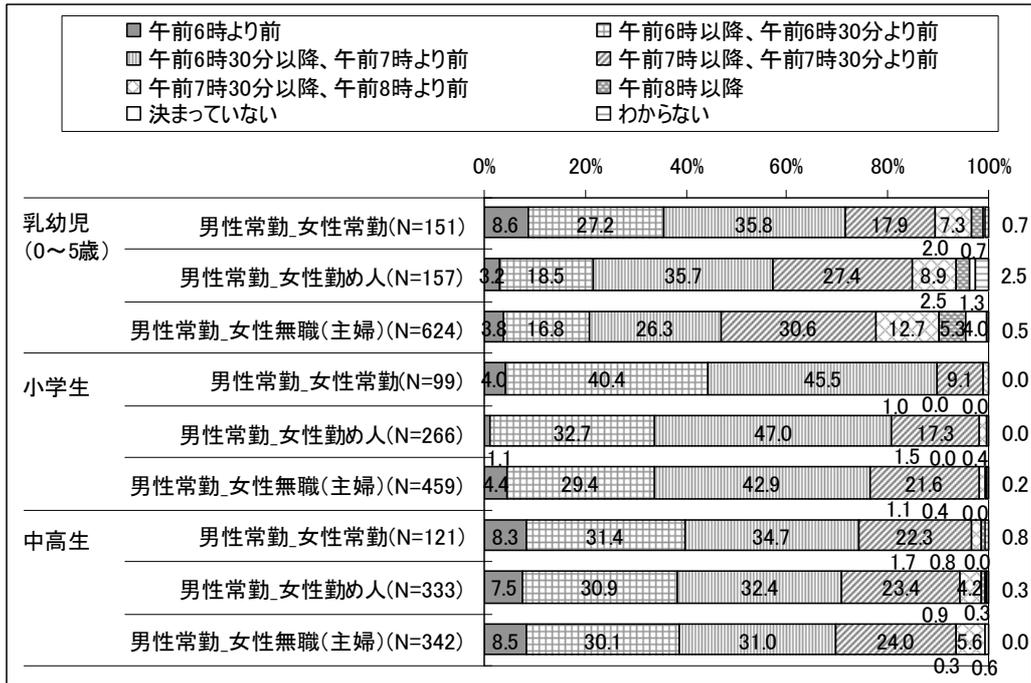
図表概 2-16 子どもとの午後9時以降の外出の有無（年齢・就業状況別）



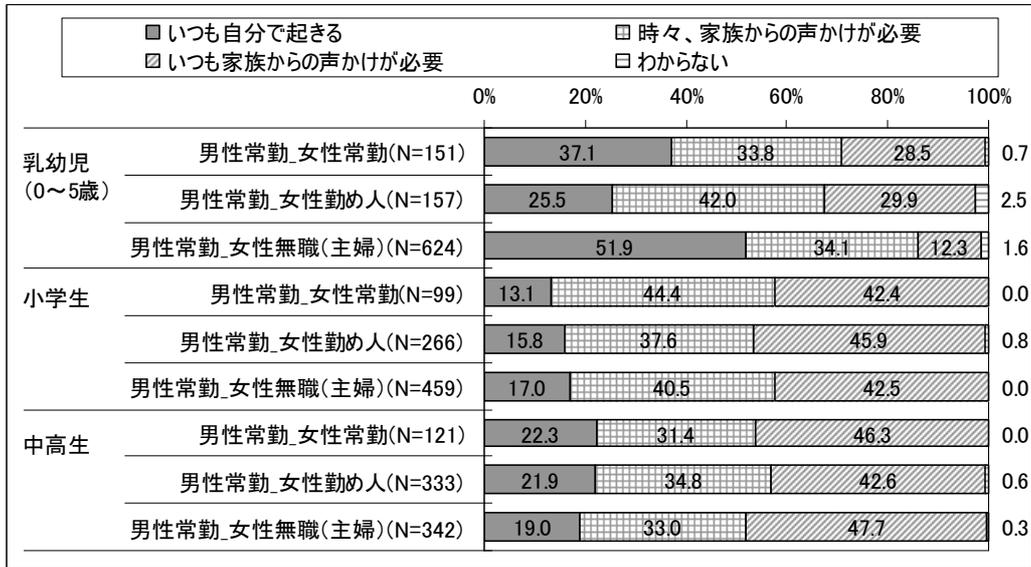
図表概 2-17 挨拶を家族でしている（年齢・就業状況別）



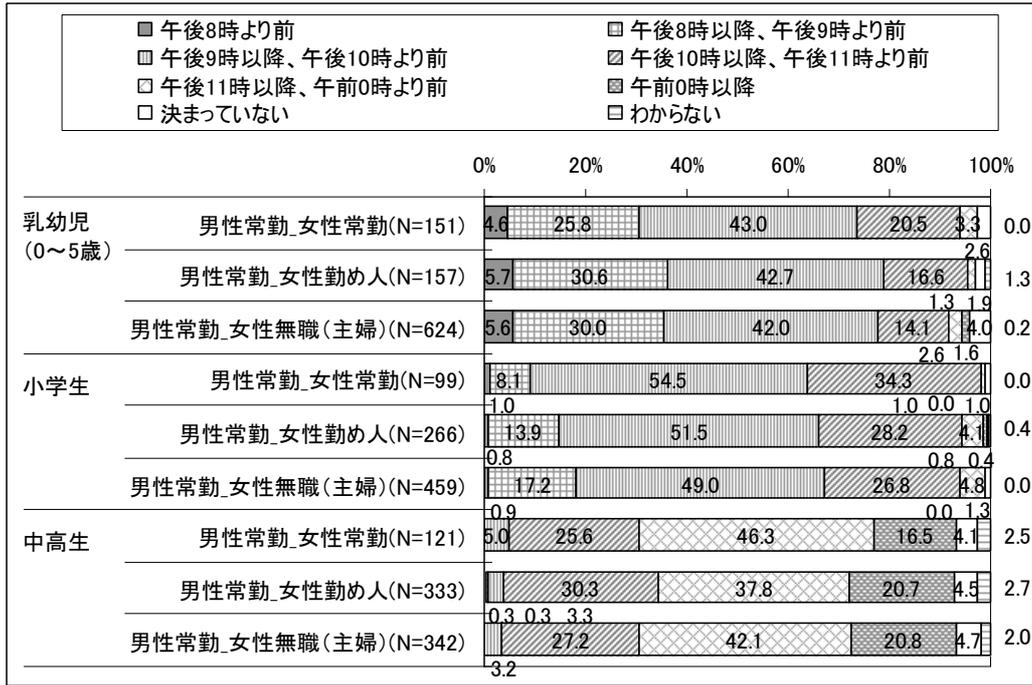
図表概 2-18 子どもの平日の起床時刻（年齢・就業状況別）



図表概 2-19 子どもは自分で起床している（年齢・就業状況別）

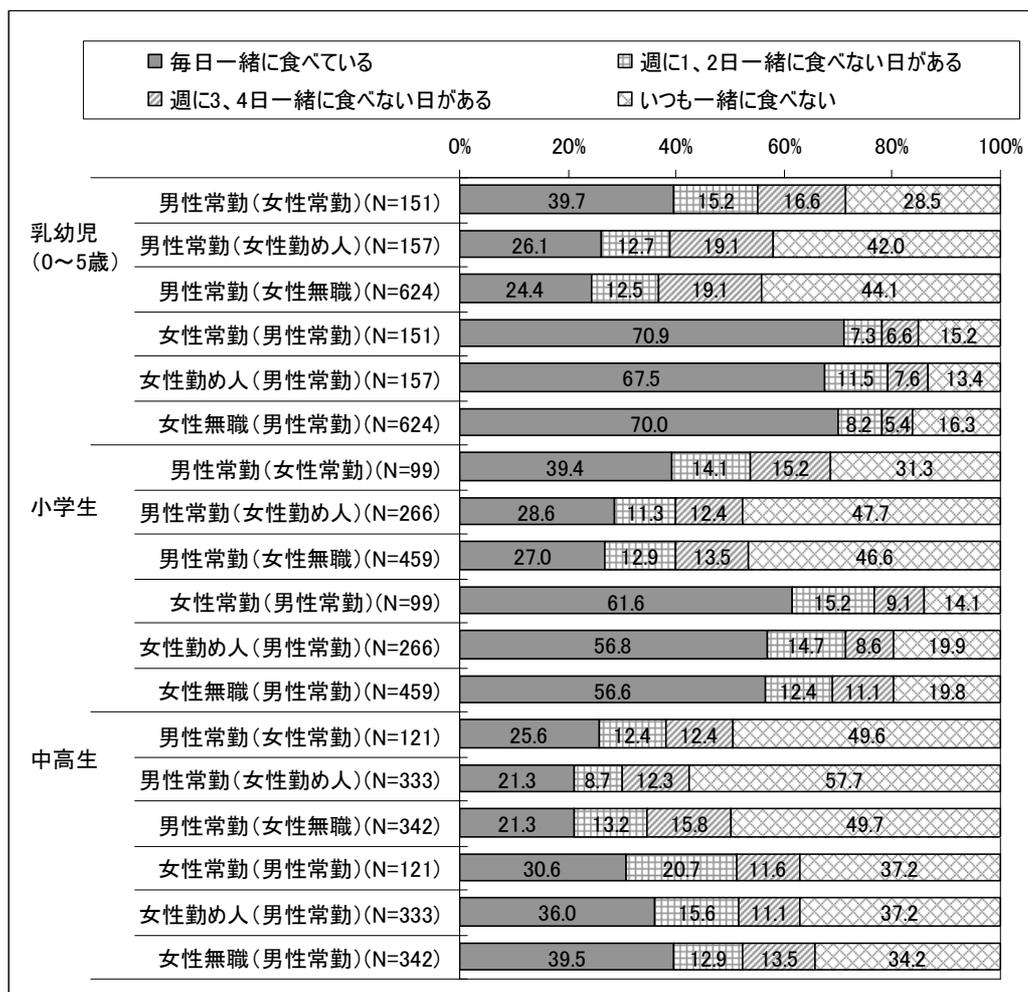


図表概 2-20 子どもの平日の就寝時刻（年齢・就業状況別）

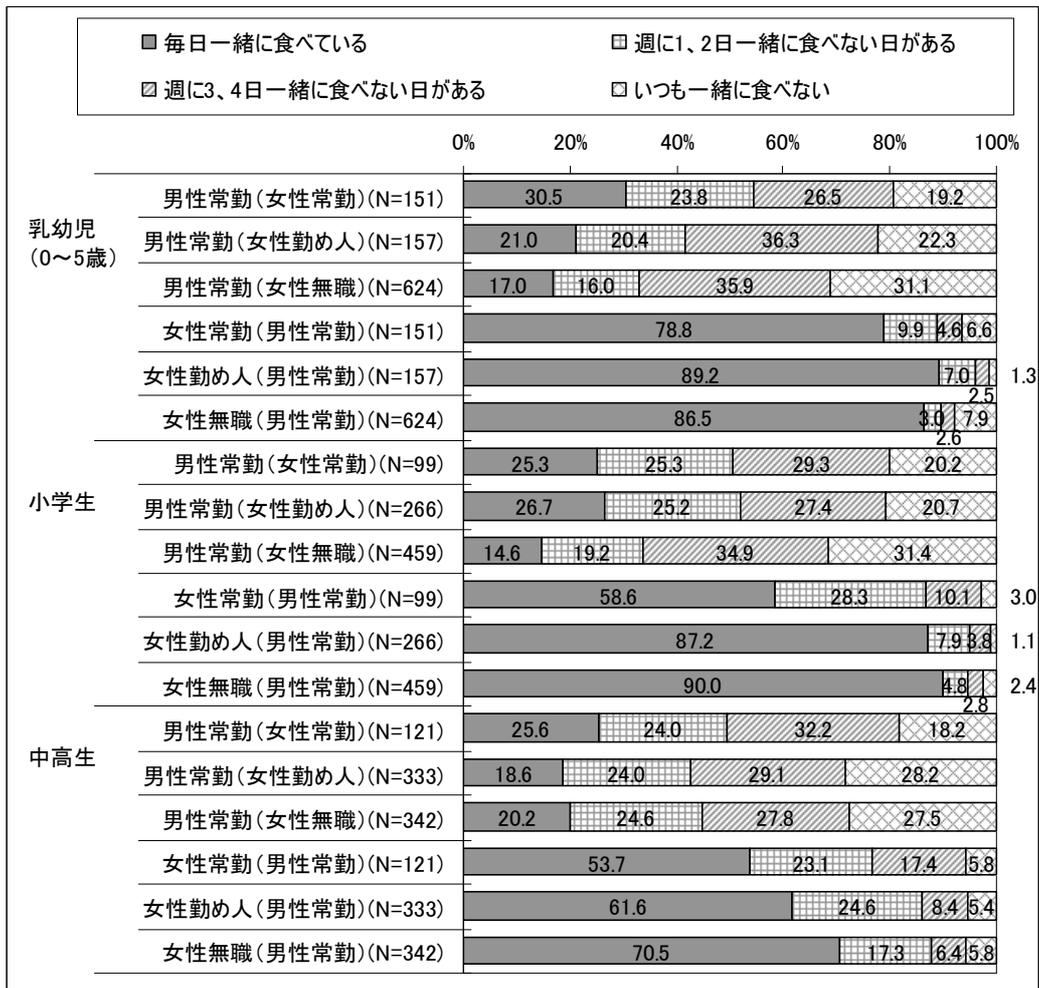


親子での食事について男女別にみると、母親と子どもは父親に比べ家庭と一緒に朝食、夕食をとっている割合が高い。家庭の就業状況別に見ると、父親については両親とも常勤の家庭において、子どもと朝食、夕食をとっている割合が高い傾向が見られる。また、両親と子どもによる食事の状況については、朝食については両親が常勤の家庭において揃って食べる割合が高く、夕食については父親が自営業の家庭において揃って食べる割合が高い。いずれにおいても父親が常勤で母親が専業主婦の家庭においては両親揃って子どもと食事をしている割合は低い傾向が見られた。

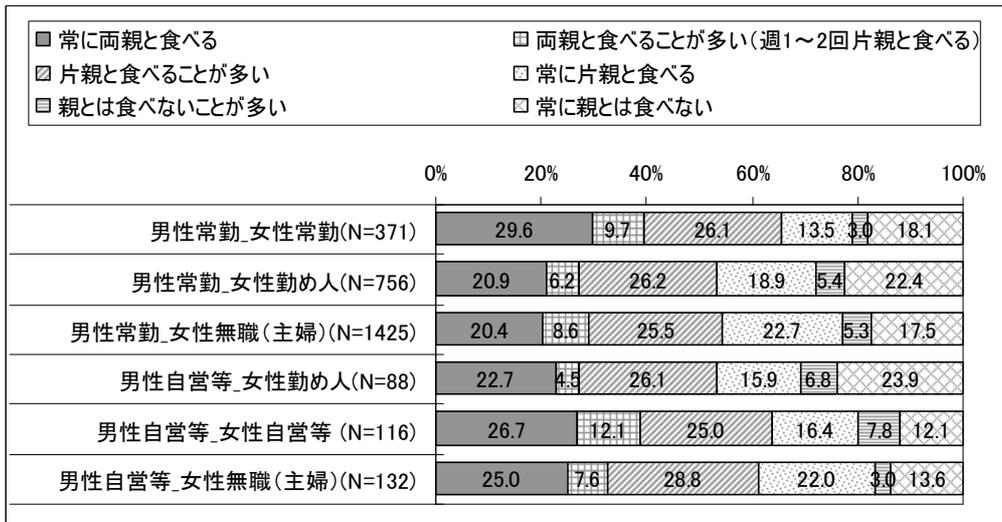
図表概 2-21 平日に子どもと一緒に朝食を食べている（年齢・就業状況別）



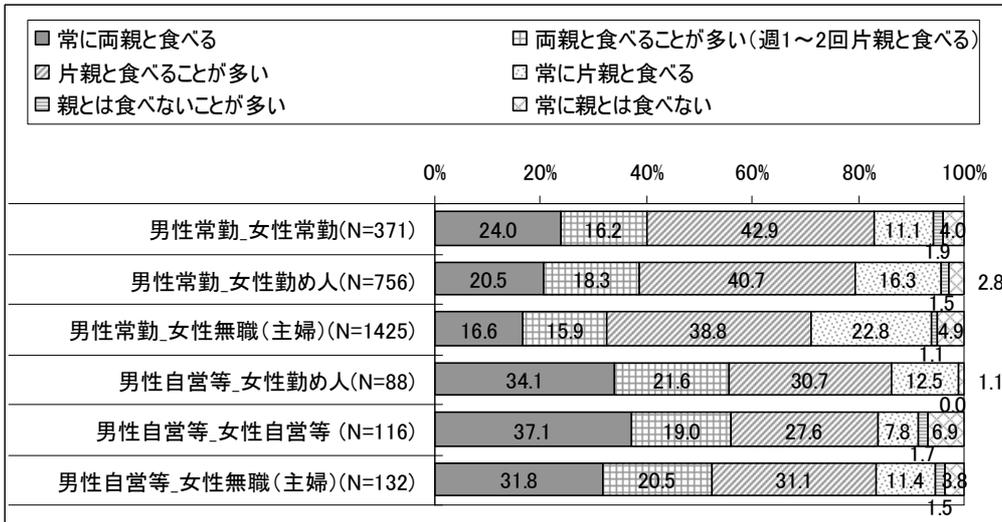
図表概 2-22 平日に子どもと一緒に夕食を食べている（年齢・就業状況別）



図表概 2-23 平日に子どもと一緒に朝食を食べている（両親について）

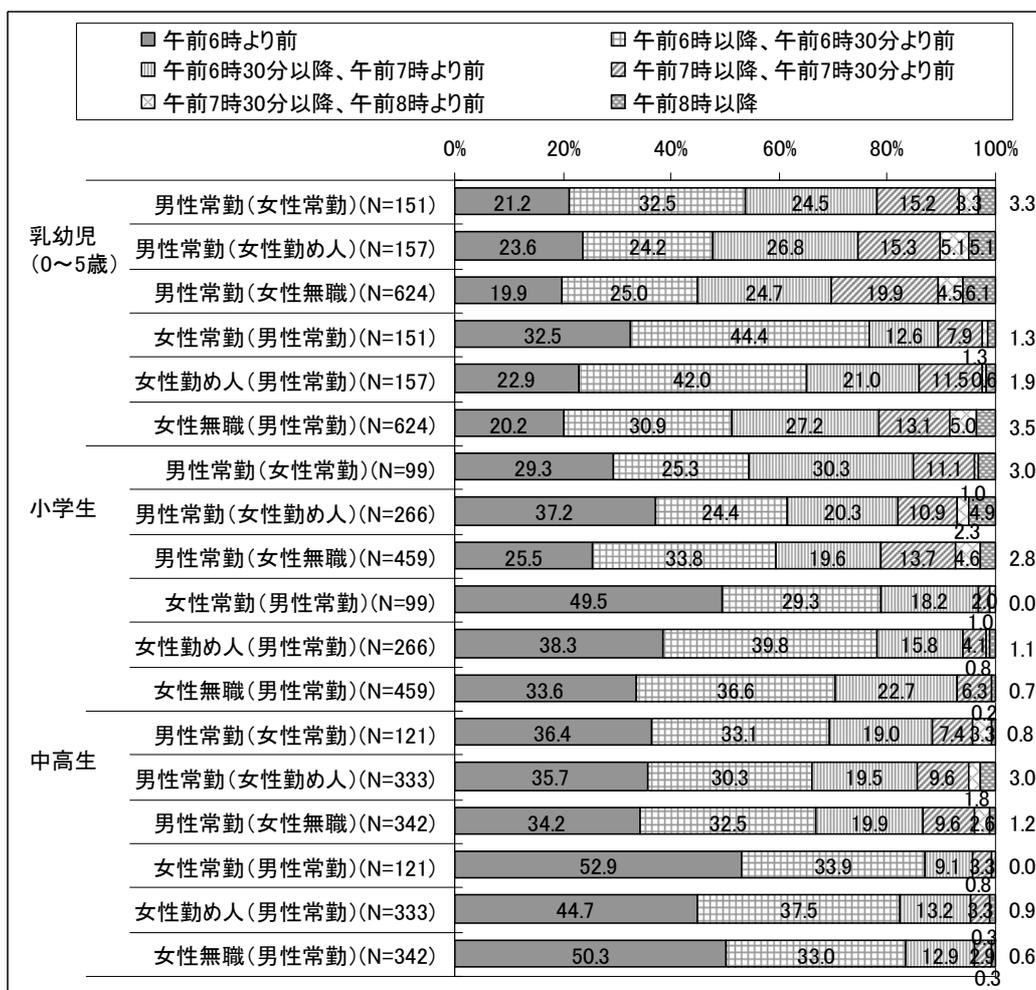


図表概 2-24 平日に子どもと一緒に夕食を食べている（両親について）

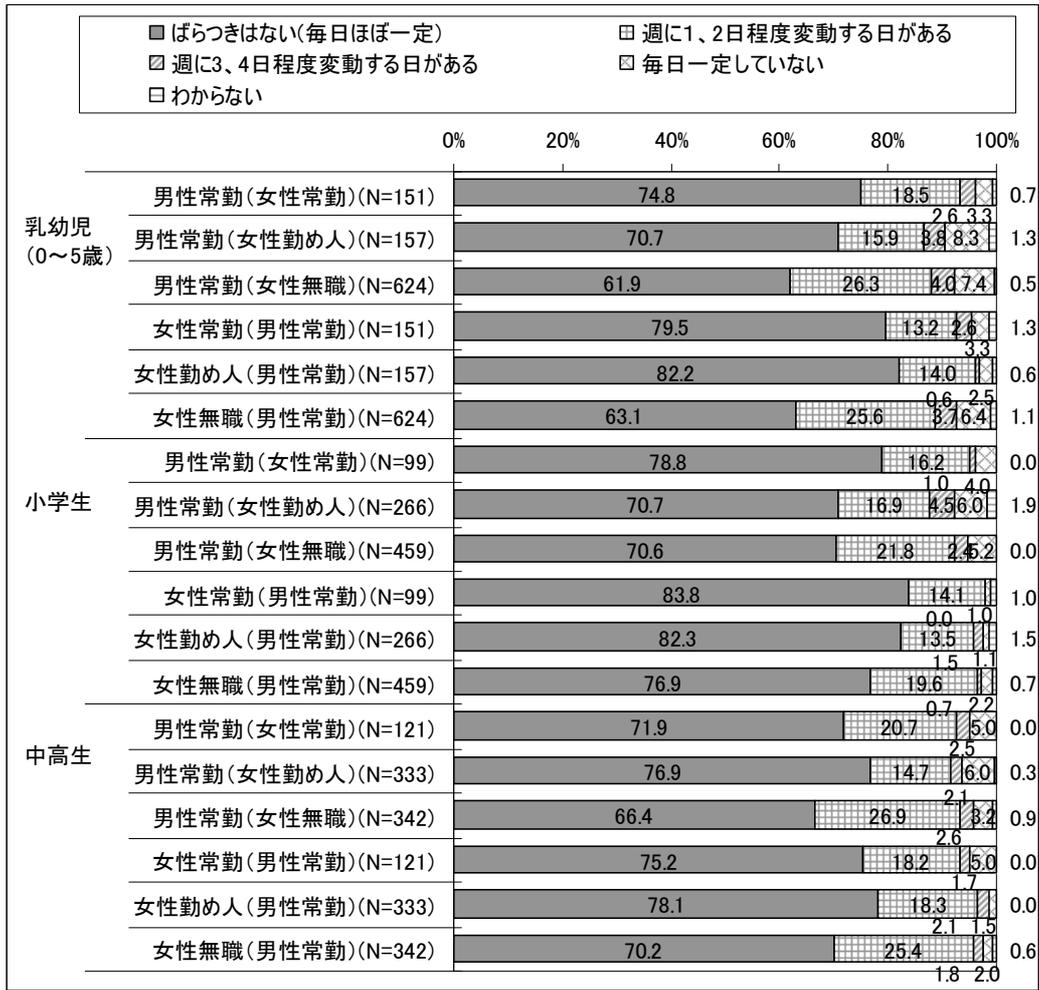


保護者自身の生活習慣については、両親が常勤の家庭において母親の起床時刻が早く、両親の就寝時刻が早く、またそのばらつきも少なく安定している傾向が見られた。一方、父親が常勤で母親が専業主婦の家庭において、母親の生活習慣については、起床や就寝時刻にばらつきが見られ、就寝時刻も遅い傾向が見られた。これは、子どもと父親の両方の生活に合わせていることなどの影響によるものと推測される。

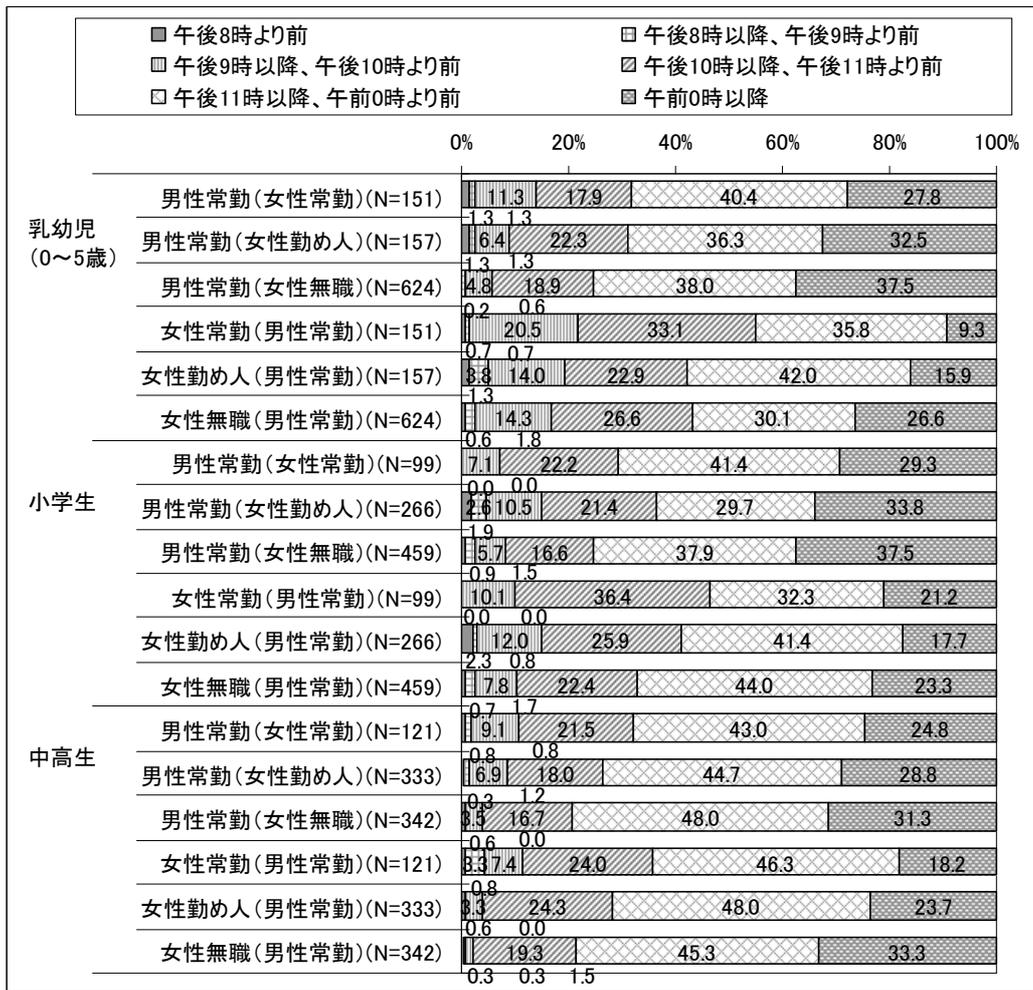
図表概 2-25 保護者の平日の起床時刻（年齢・就業状況別）



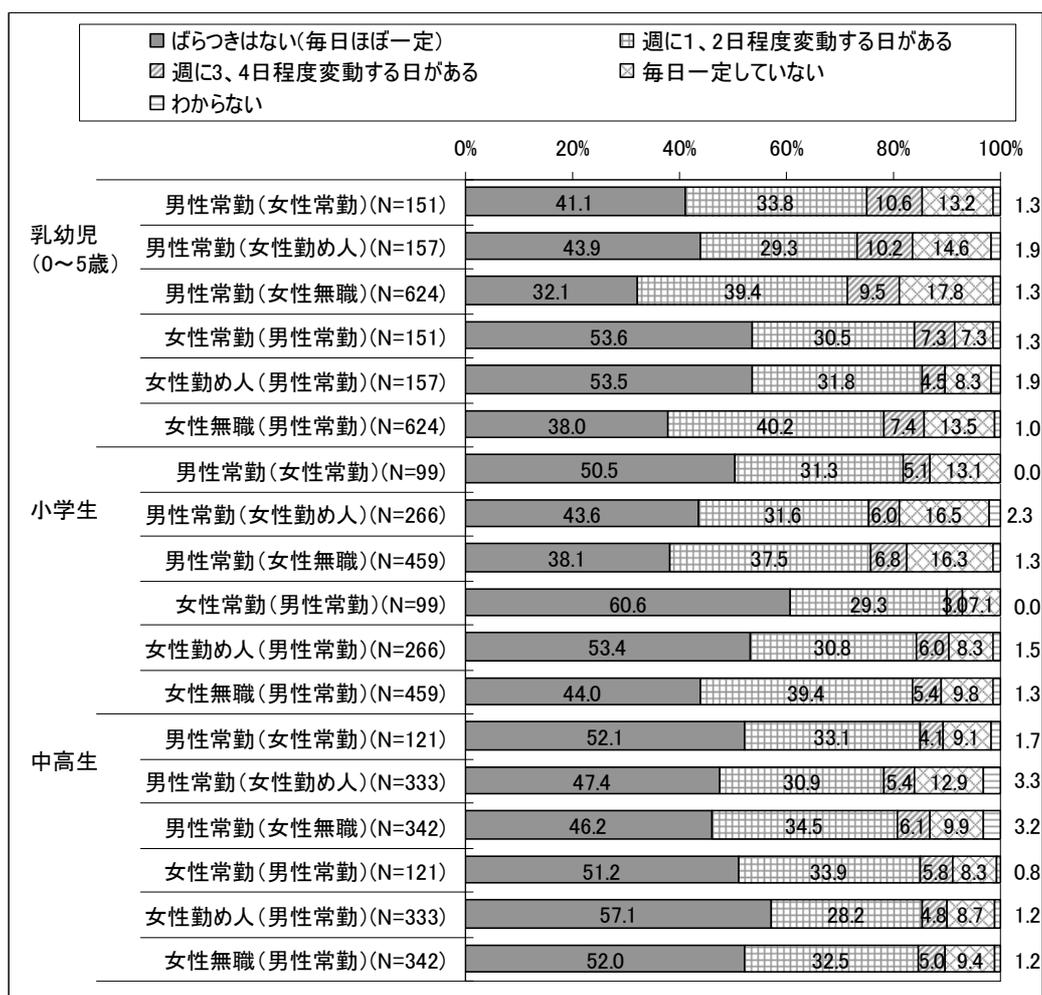
図表概 2-26 保護者の平日の起床時刻のばらつき (年齢・就業状況別)



図表概 2-27 保護者の平日の就寝時刻（年齢・就業状況別）

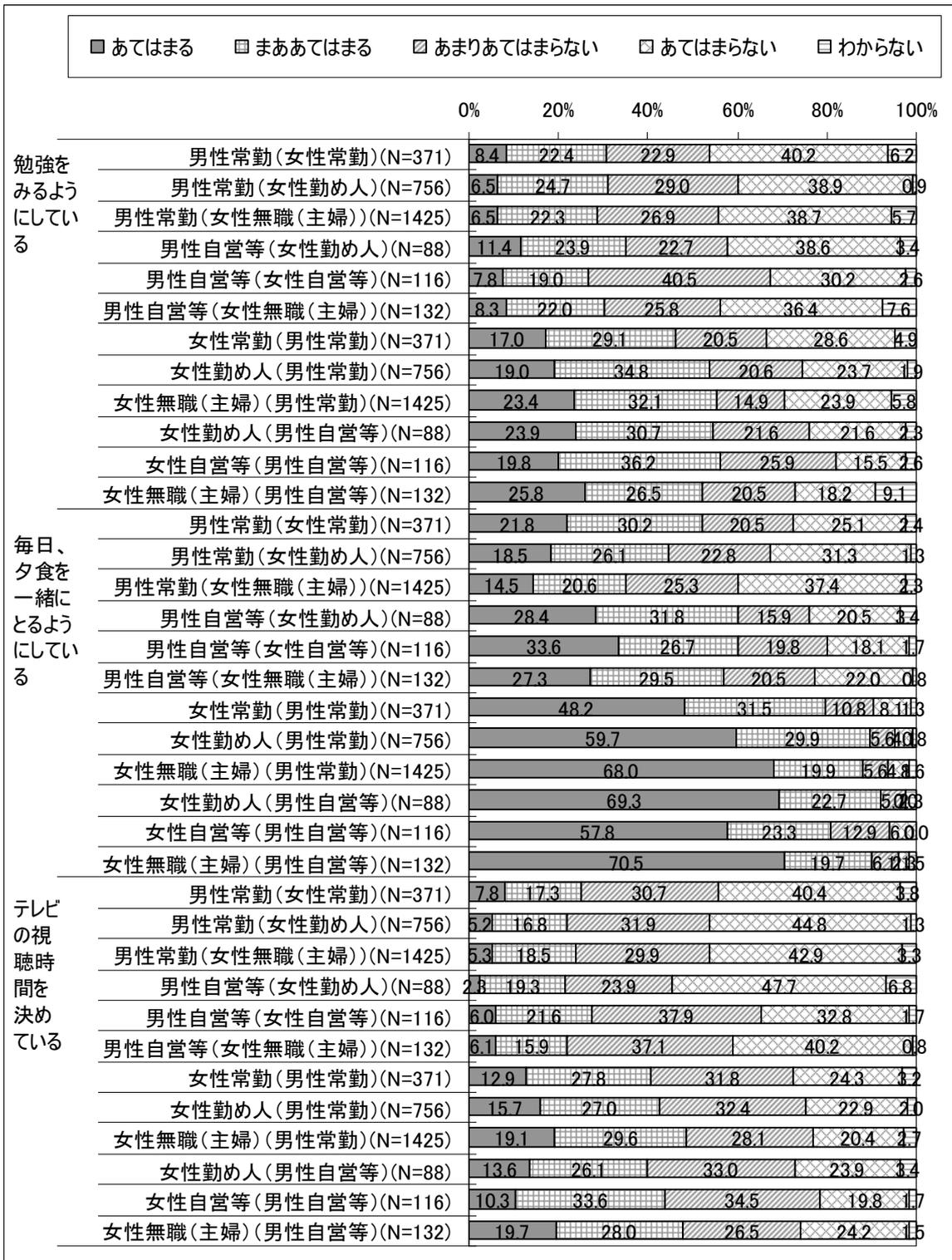


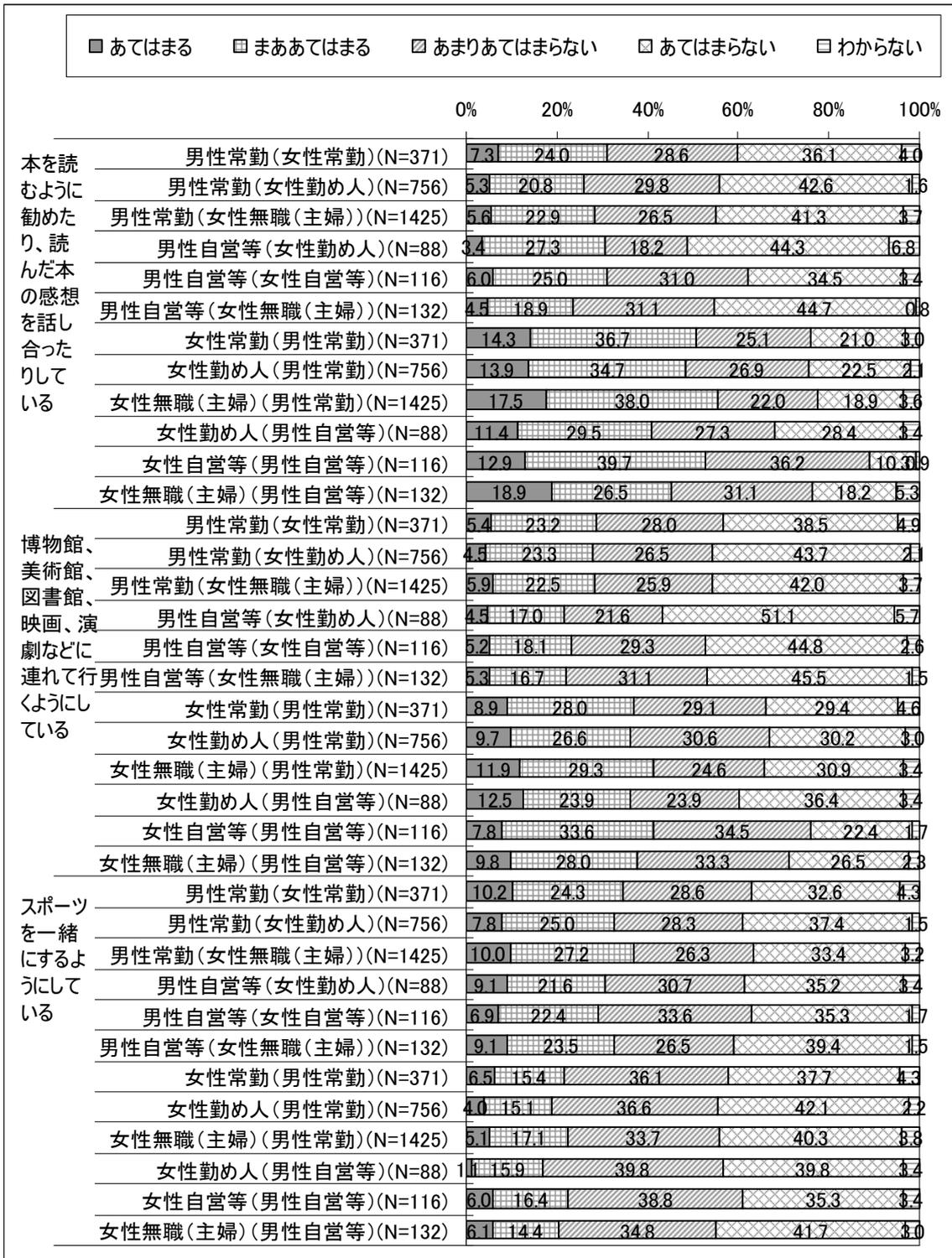
図表概 2-28 保護者の平日の就寝時刻のばらつき (年齢・就業状況別)



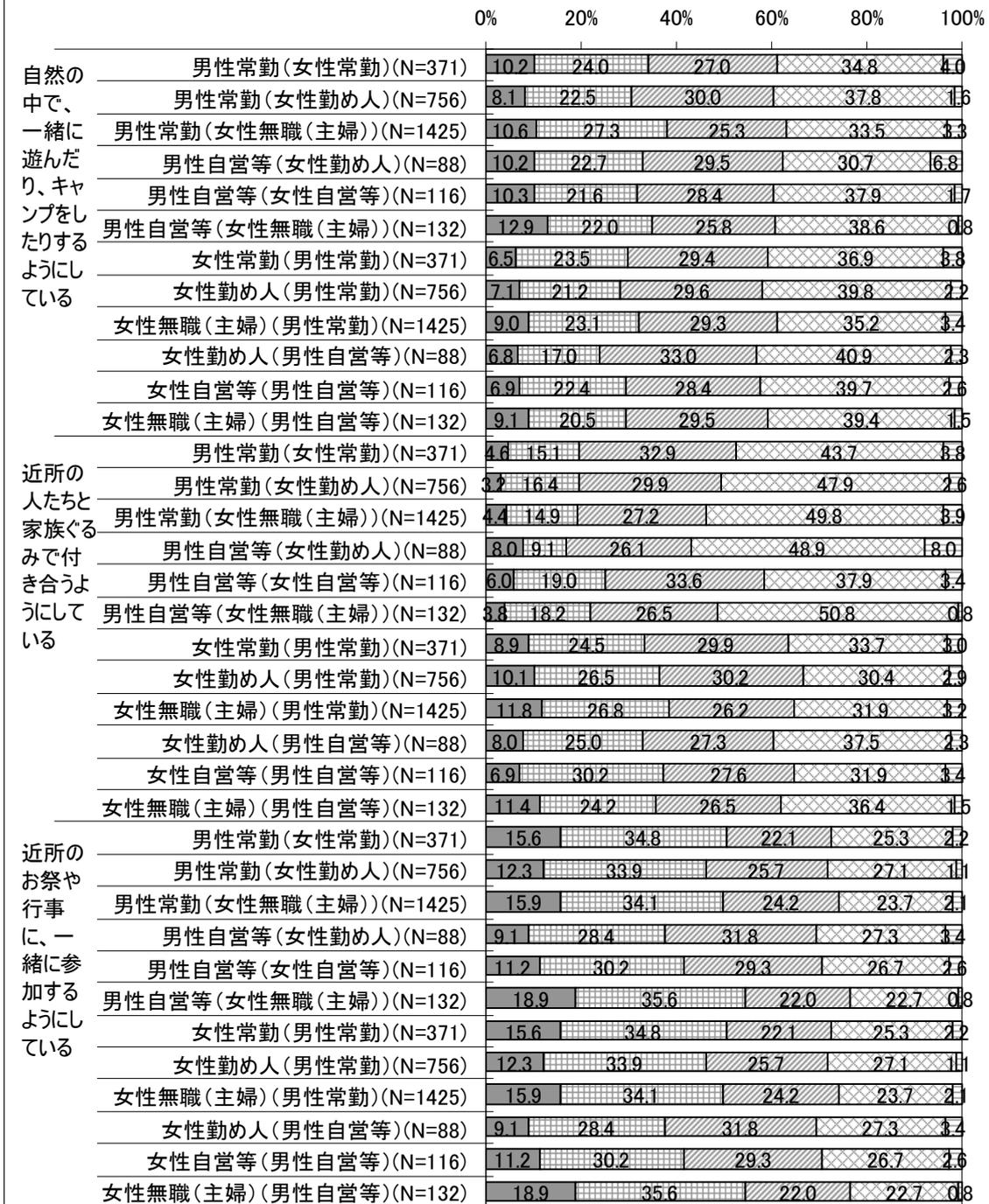
子育てにおいて心がけていることについては「自分でできることは任せている」「毎日、夕食を一緒にとるようにしている」「学校の行事には、必ず、行くようにしている」などに肯定的な回答が多い。また、全般的には女性の意識が高いものの、「スポーツ」「自然の中で遊んだり、キャンプをする」については男性の意識が高い傾向がみられた。また、特に男性では「毎日、夕食を一緒にとるようにしている」「近所のお祭りや行事に、一緒に参加するようにしている」などは本人及び配偶者等の就業状況により差異が見られるものの、「スポーツ」「自然の中で遊んだり、キャンプをする」など、主として休日を実施する活動については就業状況により、あまり差異が見られなかった。

図表概 2-29 子どもの教育について心がけていること（保護者性別・就業状況別）





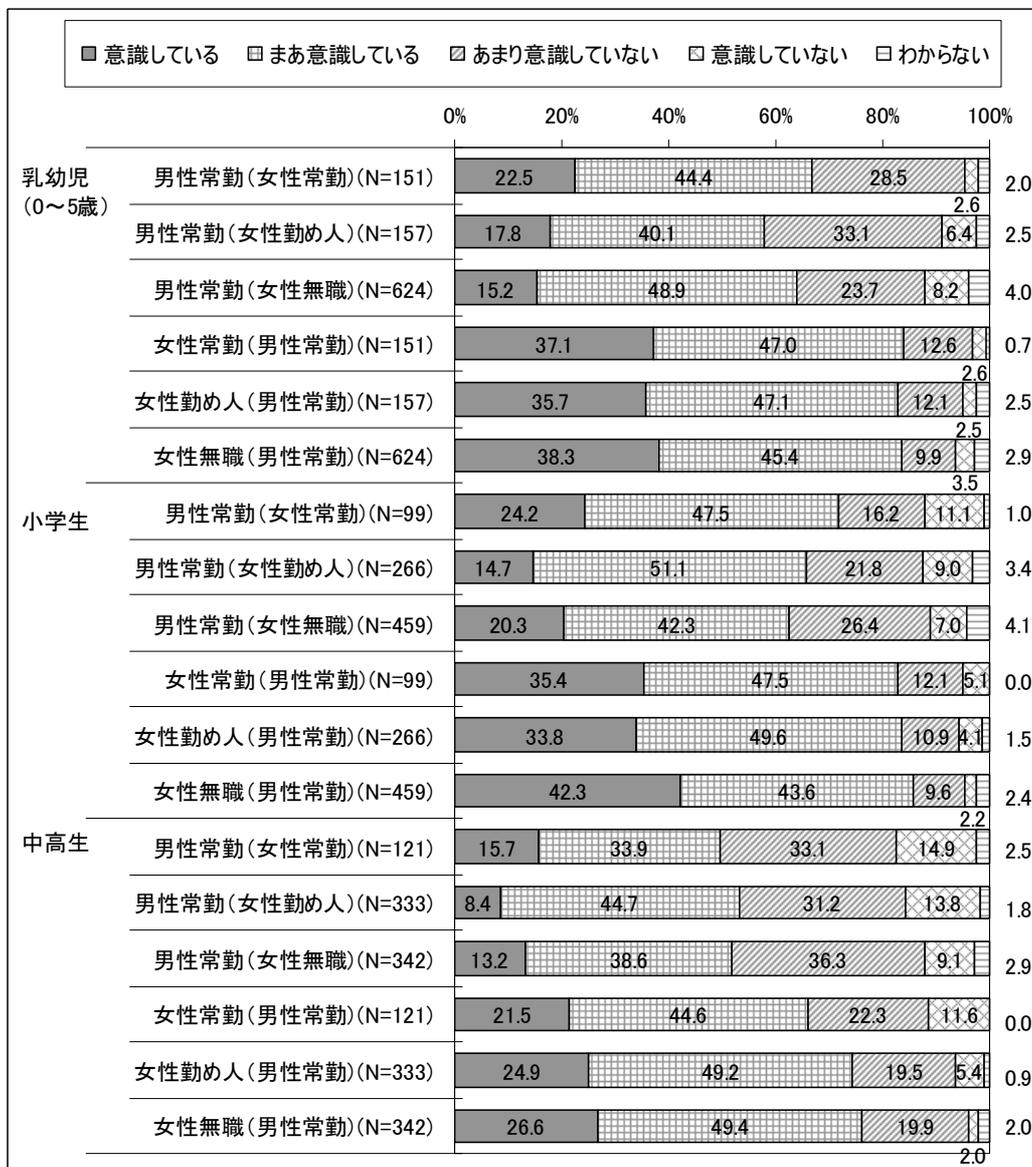
あてはまる
 まああてはまる
 あまりあてはまらない
 あてはまらない
 わからない



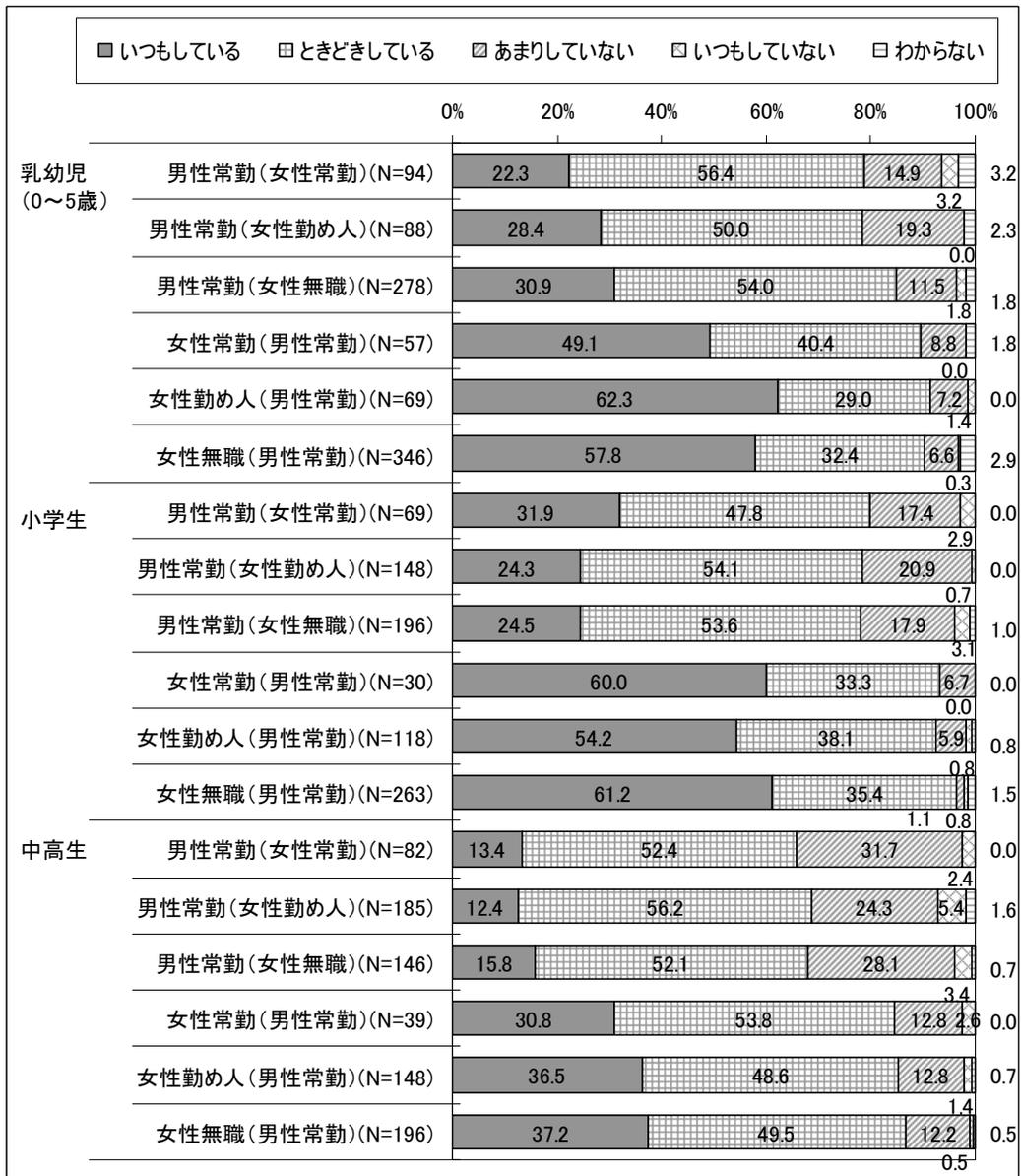


なお、子どもの生活習慣づくりへの意識や行動と家庭の就業状況を見たところ、就労の有無や子どもの年齢に関わらず、男性に比べ、女性の意識が高いものの、家庭の就業状況及び子どもの年齢について、さほど大きな傾向は見られない。

図表概 2-30 子どもの生活習慣づくりの意識（年齢・就業状況別）



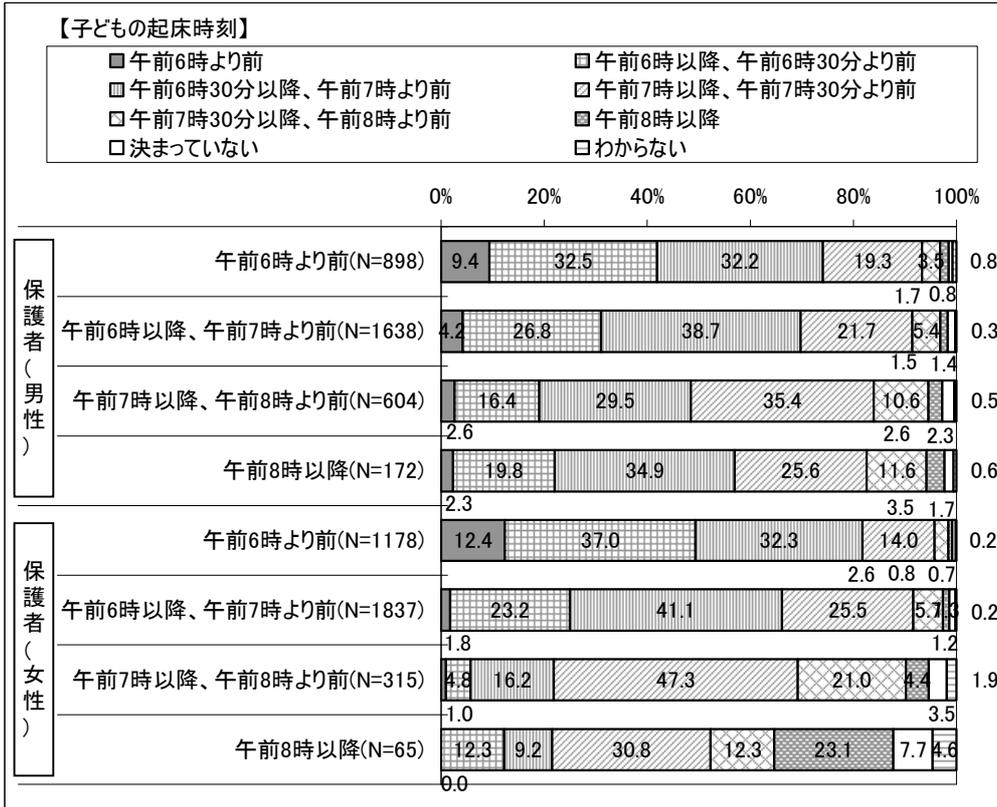
図表概 2-31 子どもの生活習慣づくりのための行動（年齢・就業状況別）



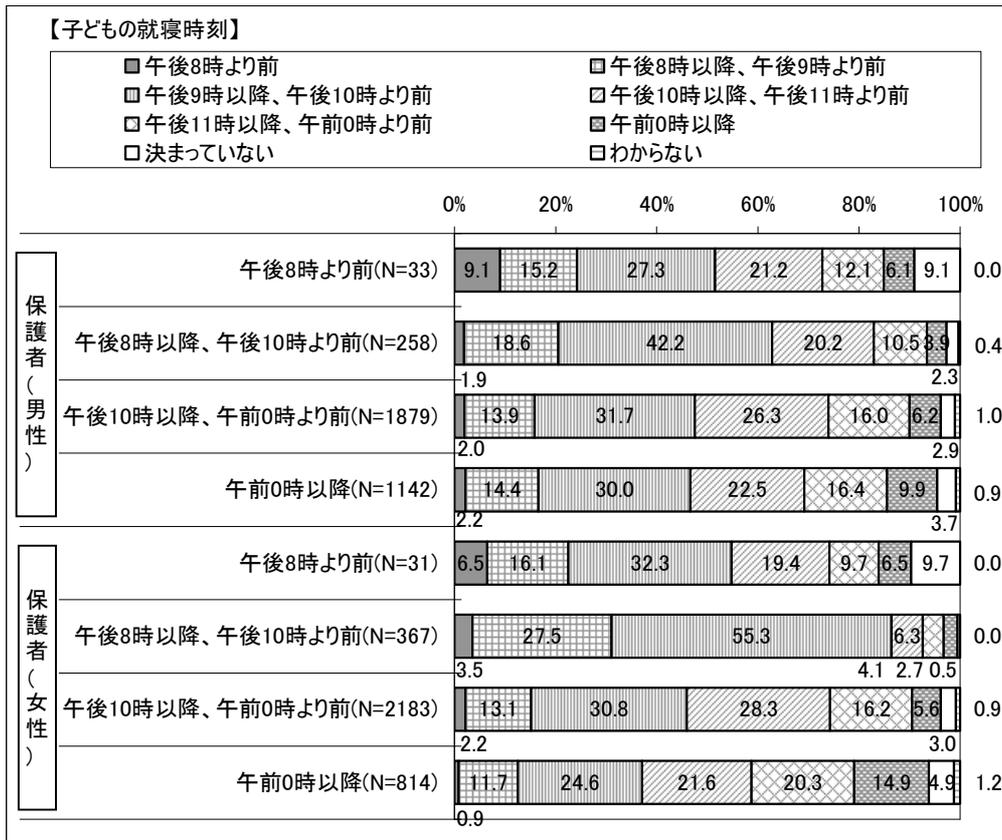
(4) 子どもの生活習慣形成と保護者の生活習慣との関係

子どもの生活習慣は起床時刻については保護者（父親、母親両方）の起床時刻と影響し合っているものの、夕食時刻、夕食を一緒に食べているか、就寝時刻については、特に母親の生活習慣（帰宅時刻）との関係が強く、母親の生活習慣が子どもの生活習慣づくりに影響を与えていることがうかがえる。

図表概 2-32 保護者の平日起床時刻と子どもの平日起床時刻（男女別）

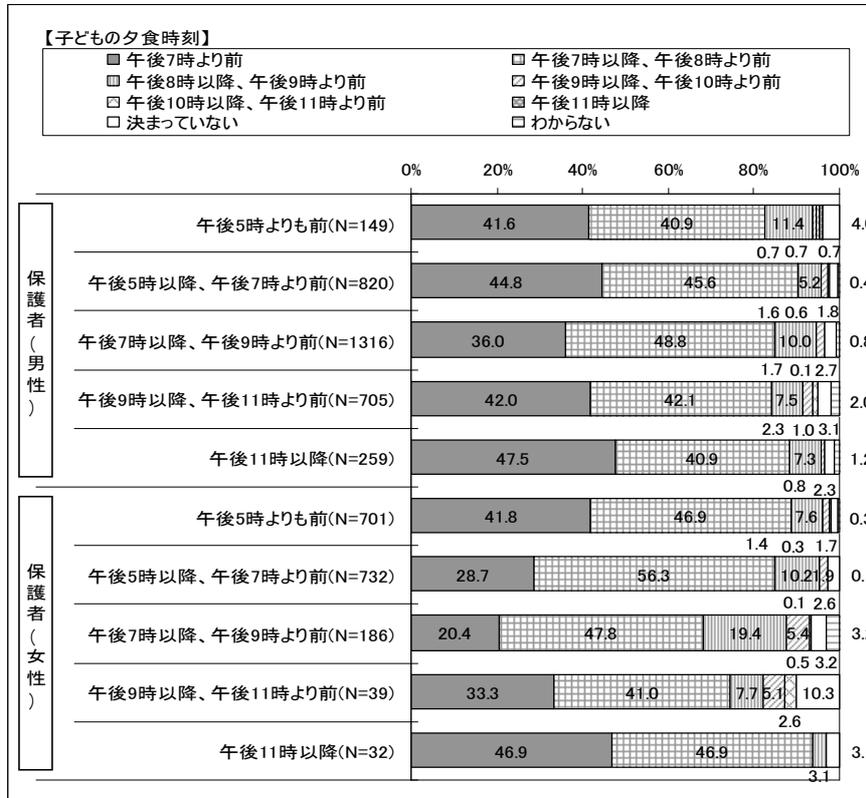


図表概 2-33 保護者の平日就寝時刻と子どもの平日就寝時刻（男女別）

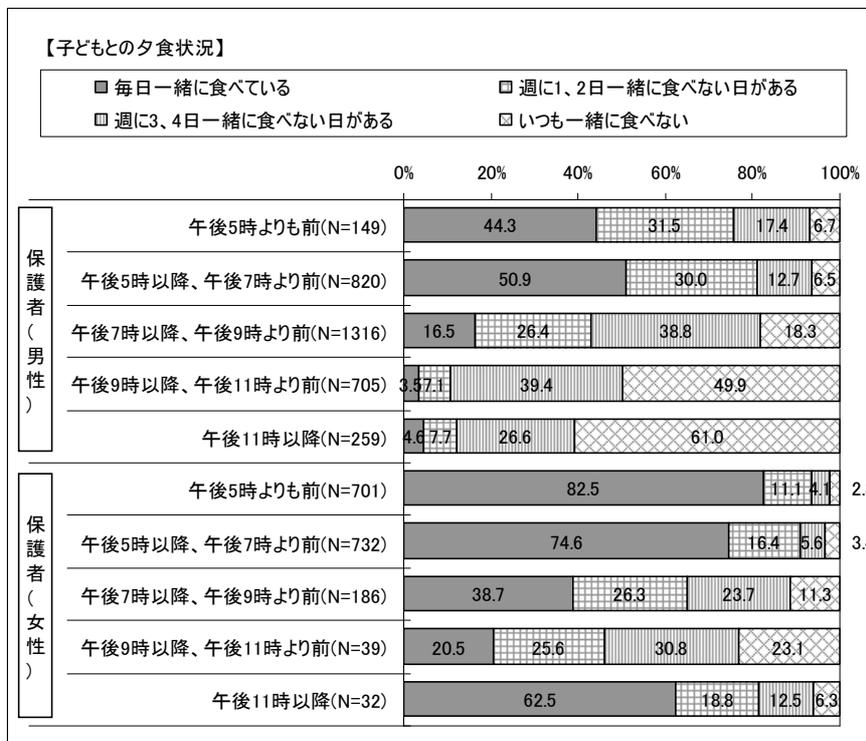


特に、保護者の帰宅時刻と、夕食を子どもと一緒に食べている状況についてみると、帰宅時刻が早いほど、一緒に夕食を食べている傾向が顕著である。

図表概 2-34 保護者の帰宅時刻と子どもの夕食時刻 (男女別)



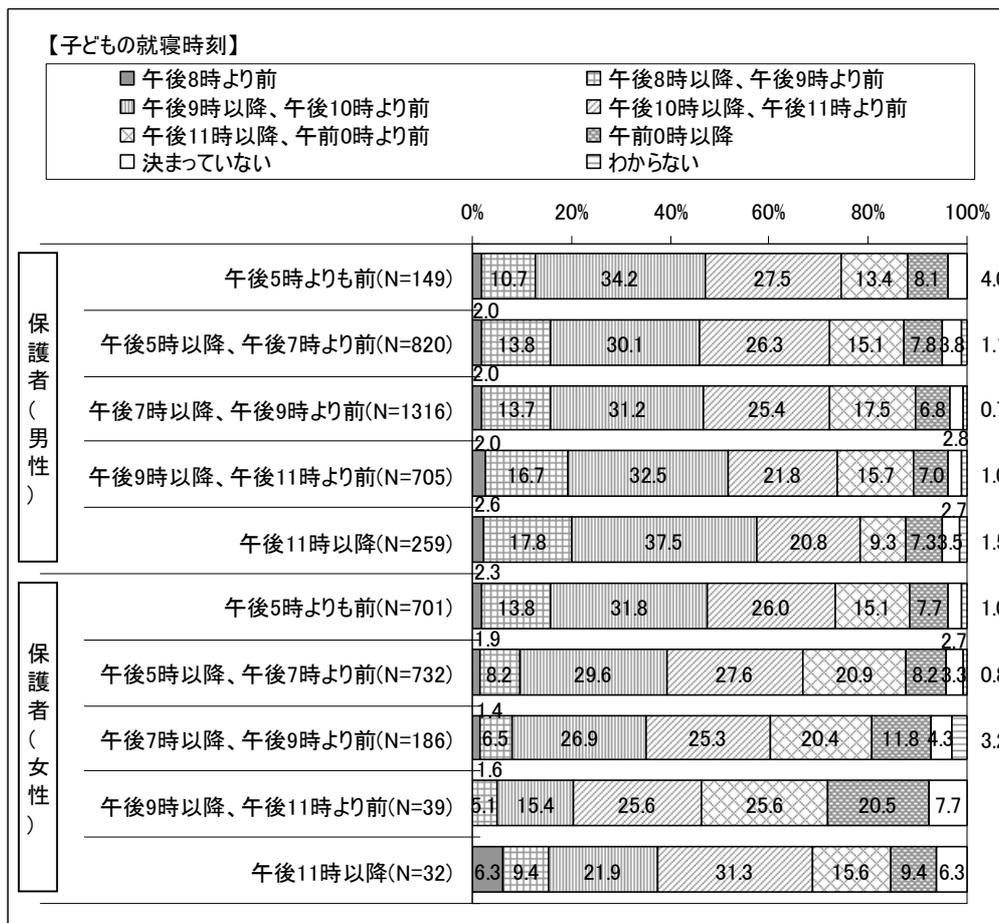
図表概 2-35 保護者の帰宅時刻と子どもとの夕食状況 (男女別)



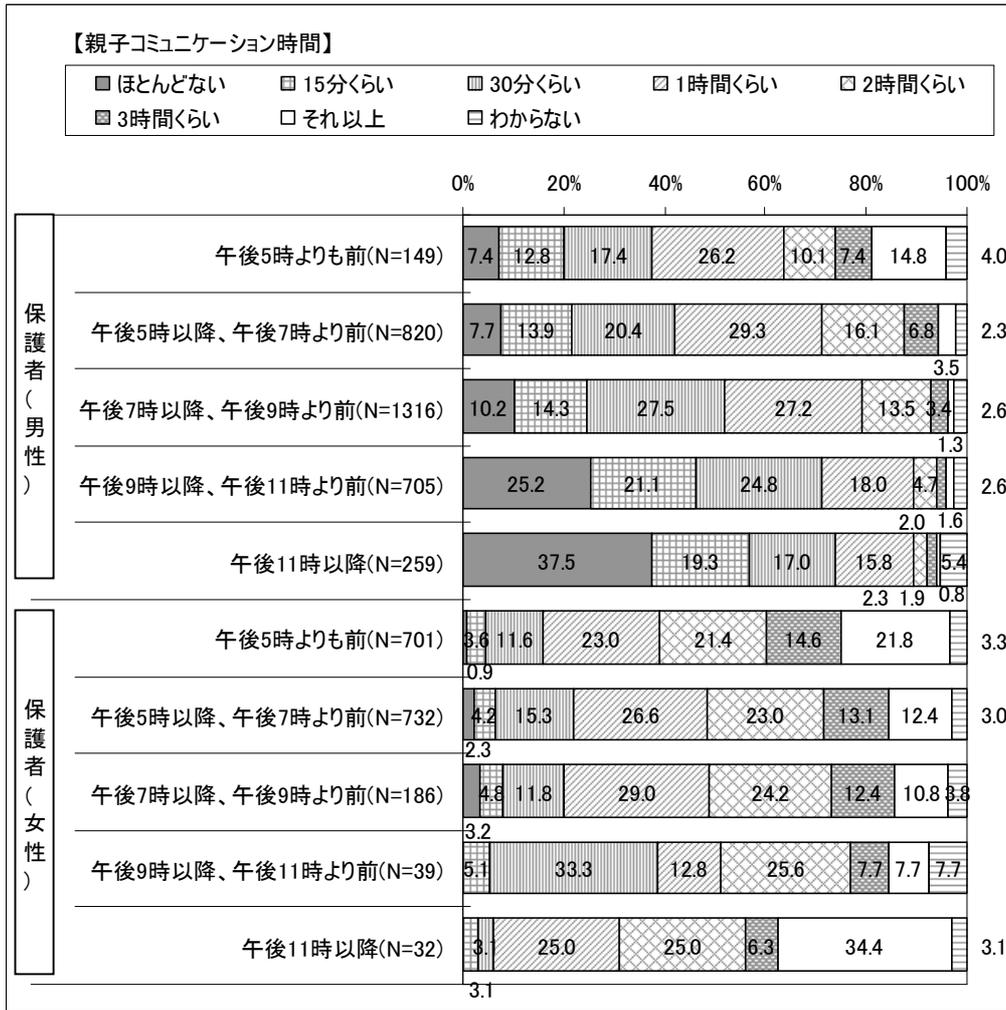
父親の帰宅時刻とコミュニケーション時間には顕著な差が見られる。

なお、女性で午後11時以降に帰宅する方では、むしろ子どもの就寝時刻が早く、コミュニケーション時間が長い傾向が示されている。これらの方々の職業は勤め人（パート・アルバイト・契約社員）がほとんどを占め、業種は「飲食店、宿泊業」が最も多く、「医療、福祉」、「卸売、小売業」、「製造業」、「教育、学習支援業」、「サービス業」等である。また、職種はサービスの職業が最も多く、次いで専門的職業となっている。これらを総合すると、夜間シフトで勤務しており、日中に家事をしたり、子どもと関わる時間を持っているものと考えられる。

図表概 2-36 保護者の帰宅時刻と子どもの平日就寝時刻（男女別）



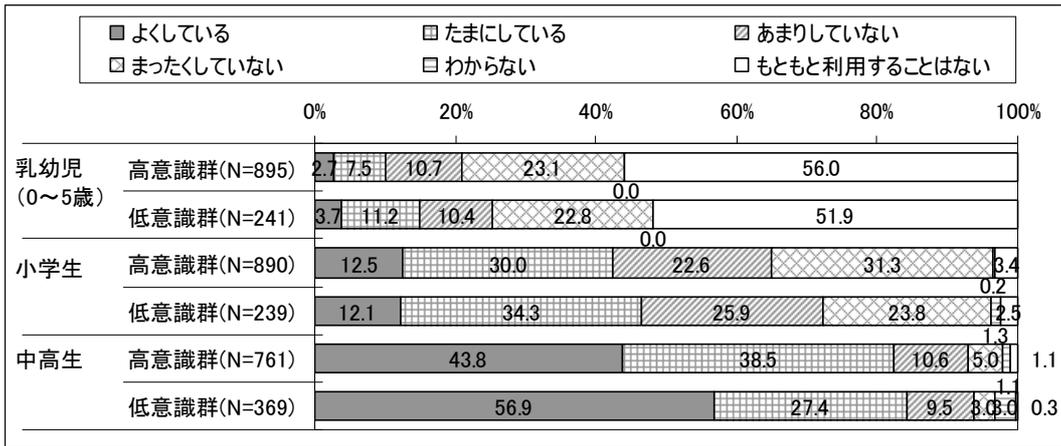
図表概 2-37 保護者の帰宅時刻と親子コミュニケーション時間（男女・年齢別）



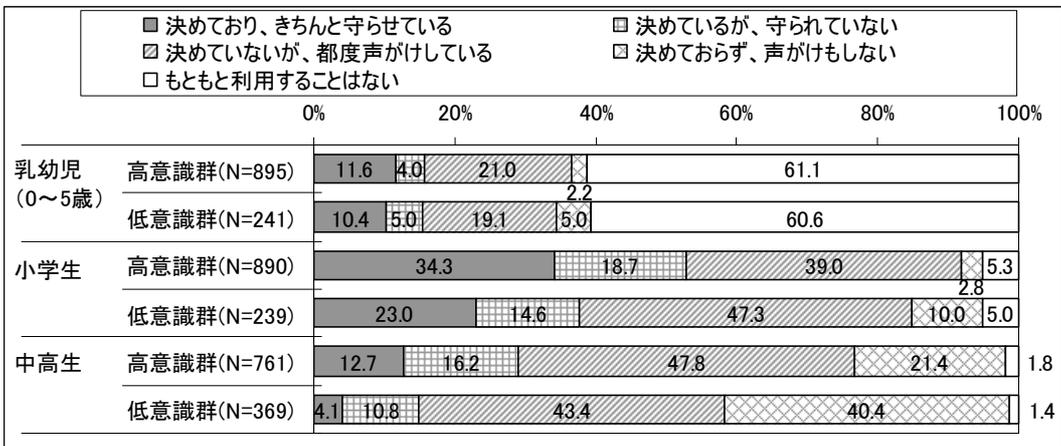
(5) 中学生・高校生における生活習慣

中学生・高校生の生活習慣と保護者の意識との関係を分析すると、保護者の意識の高意識群の方がテレビ、パソコン、ゲーム、携帯電話の利用頻度が低く、利用ルールを決めている割合も高い。また、子どもの生活習慣づくりへの意識の高意識群では、中学生・高校生の子どもに対して生活習慣づくりのための行動をとっており、保護者自身の生活習慣が子どもに影響すると考える保護者が多い。

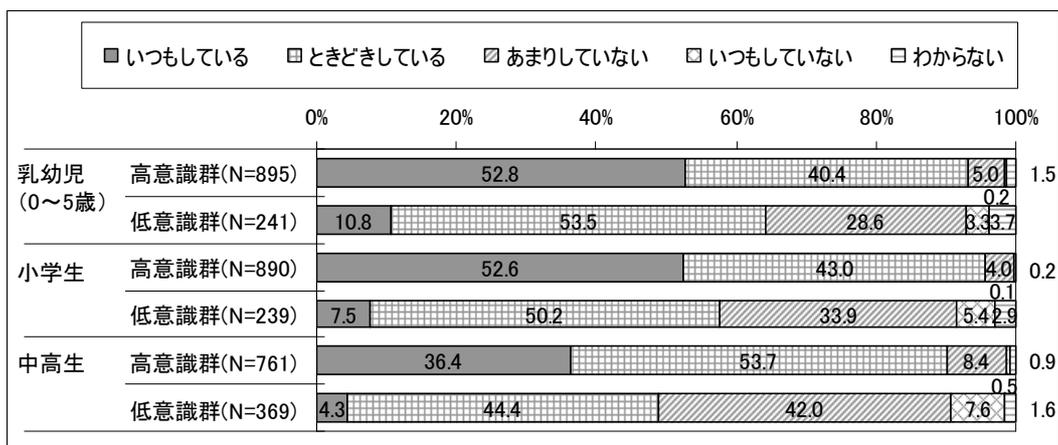
図表概 2-38 子どもの午後 9 時以降のテレビ、パソコン、ゲーム、携帯電話の利用の有無



図表概 2-39 子どものテレビ、パソコン、ゲーム、携帯電話の時間を決めている



図表概 2-40 子どもの生活習慣づくりのための行動



図表概 2-41 保護者の生活習慣の子どもの生活習慣への影響度

